DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-A1HD

AV プリアンプ

AVP-A1HD

取扱説明書【アップグレード版】

本機の取扱説明書は次の２冊で構成されています。

- 【本編】
- 【アップグレード版】…本書

ご注意

一度アップグレードした製品は、アップグレード前の状態に戻せません。

❑ 本書に記載のマークについて

AVC-A1HD　このマークは、AVC-A1HDに関する内容をあらわします。

AVP-A1HD　このマークは、AVP-A1HDに関する内容をあらわします。

このマークは、【本編】の記載項目をあらわします。

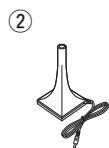
- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 取扱説明書（**【本編】**・**【アップグレード版】**）をお読みになった後は、いつでも見られるところに大切に保管してください。

ご使用になる前に

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

① CD-ROM（取扱説明書）...1
② セットアップマイク
（DM-A409、コードの長さ：約 6.0m）...................... 1

②

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

アップグレードによる追加 / 変更 / 削除機能について

アップグレードすると各設定内容がすべて初期化されます。必要に応じて、再度設定をおこなってください。

追加機能

Audyssey Dynamic Volume® 機能
Audyssey Dynamic Volume® は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整します。

DENON LINK 4th 機能（ジッターフリー再生）
DENON LINK 4th は、DENON 独自の高品質な音声信号伝送技術 DENON LINK 3rd に加えて、HD 音声の高品質再生を実現しています。
共に DENON LINK 4th に対応している AV アンプとブルーレイディスクプレーヤーを DENON LINK ケーブル（ブルーレイディスクプレーヤーに付属）と HDMI ケーブル（別売り）で接続すると、AV アンプから送出されたマスタークロック信号でブルーレイディスクプレーヤーを動作させることができます。
AV アンプのマスタークロックで D/A 変換をおこなうため、HDMI 伝送によるクロックジッターの影響を受けずに、ジッターフリー再生を可能にします。
これにより、音の定位がより明確になり、HD オーディオにふさわしいクリアーで立体的な音像をお楽しみいただけます。

Audyssey DSX™ 機能
本機にフロントハイトスピーカーを接続して Audyssey DSX™ 再生をおこなうことにより、より上下の空間表現力を持った再生をお楽しみいただけます。また、フロントワイドスピーカーを接続することで、よりワイドな左右の空間表現力をもった再生をお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic IIz 機能
Dolby Pro Logic IIz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

HDMI（Ver. 1.4a with 3D）機能
ブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D ビデオ信号を、3D 対応テレビに出力することができます。

DTS Neo:X 機能
2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースを最大 9.1 チャンネルのスピーカーで、より広がりある音場で再生する技術です。

変更機能

フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーに対応
FH/FW/AMP ASSIGN-2 スピーカー端子および PRE OUT の FH/FW 端子からフロントハイトまたはフロントワイドチャンネルを再生できます。これにより、最大 9.3 チャンネルのサラウンド再生をお楽しみいただけます。

Audyssey MultEQ® XT 32 機能
Audyssey MultEQ® は、リスナーがリスニングエリアのどの位置にいても、最適な音響環境で音楽や映画を楽しめるように、スピーカーの特性や部屋の特性を解析し、時間特性と周波数特性の両方を自動的に補正します。本機では、フィルター補正の解像度を飛躍的に高めた Audyssey MultEQ® XT 32を採用しています。Audyssey MultEQ® XT 32では、特にスピーカーの低域の補正における分解能を向上させています。音の定位が明瞭になることで、まさに劇場の中にいるような音の空間に包まれます。

ダイレクトモード機能 (マルチチャンネル)
マルチチャンネル信号を入力時、2 チャンネルにダウンミックスせずにマルチチャンネルのままダイレクト出力します。

サラウンドバック機能
サラウンドバックスピーカーをお使いの場合で、なおかつ入力信号にサラウンドバック信号が収録されている場合は、自動的にサラウンドバックスピーカーから音声を出力します。

ウェブコントロール機能
アップグレードすると、以前保存した内容が呼び出せなくなります。
アップグレード後、再度各設定をおこなってください。
ウェブコントロールの操作方法については、📖67 ページをご覧ください。

削除機能

サラウンド B スピーカー非対応
アップグレードにより、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーに対応したため、サラウンド B スピーカーは使用できなくなります。

Audyssey MultEQ® XT 機能
アップグレードにより、本機が Audyssey MultEQ® XT 32 に対応したため、Audyssey MultEQ® XT が削除されます。

DTS Neo:6 機能抹消
アップグレードにより、本機が DTS Neo:X に対応したため、DTS Neo:6 が削除されます。

ナイトモード機能
アップグレードにより、夜間に小音量で音声を聞くときに設定するナイトモード機能が削除されます。GUI メニューの"Dynamic Volume®"（☞43 ページ）を"オン"に設定することで同様の効果が得られます。

マイク選択機能
アップグレードにより、マイク選択機能が削除されます。付属品（DM-A409）以外のセットアップマイクは使用できません。

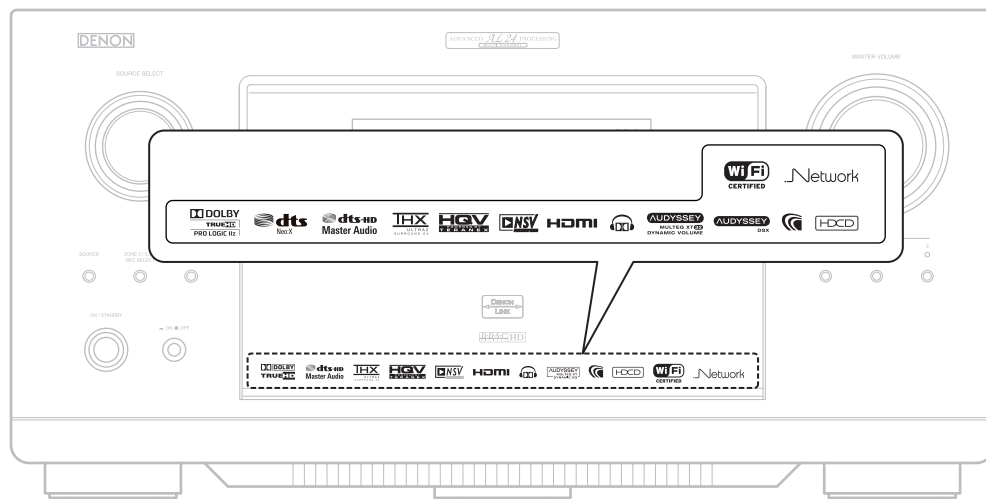
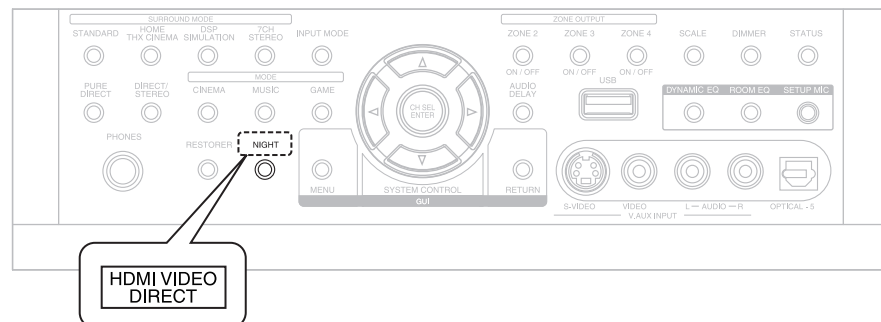
GUI メニューの追加 / 変更 / 削除項目については、「GUI メニューマップ」（☞11、12 ページ）をご覧ください。

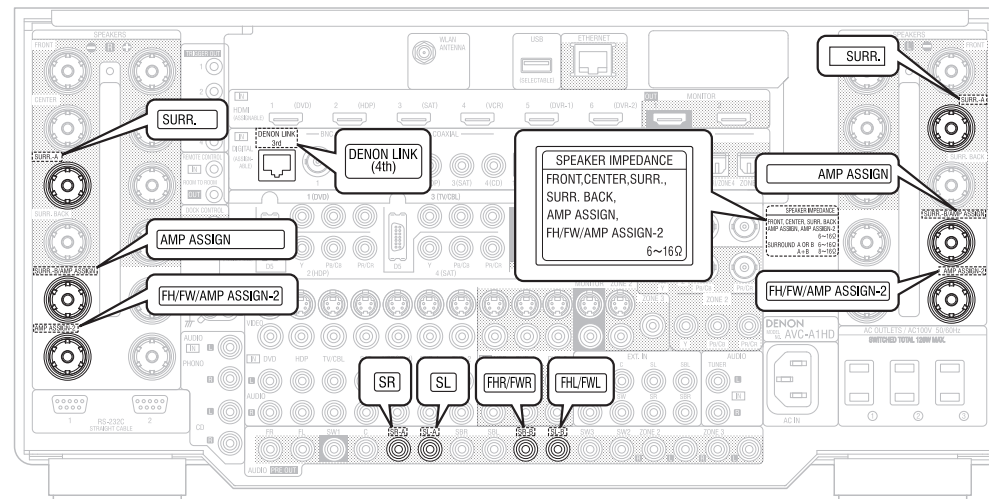
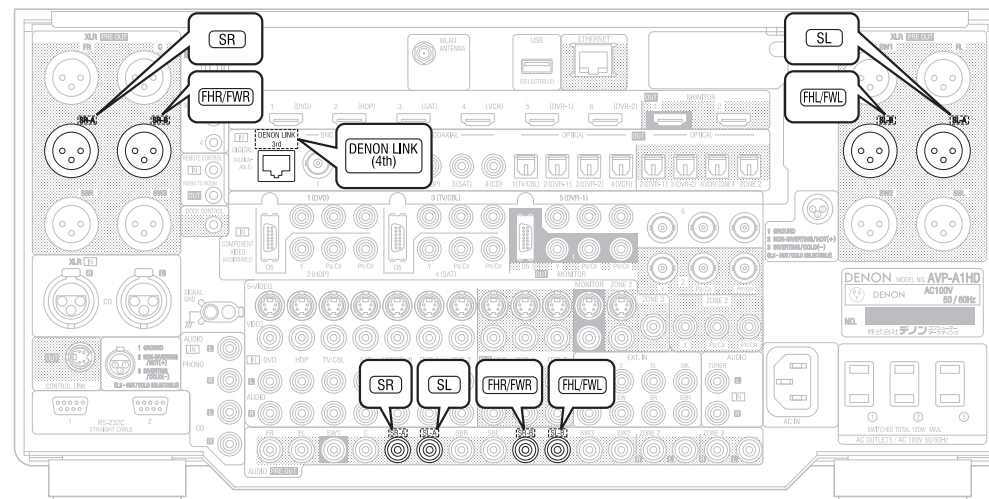
総目次

パネル表示の変更点について

アップグレード後は、パネルの変更箇所にラベルを貼り付けています。変更箇所の詳細については、下記イラストをご覧ください。

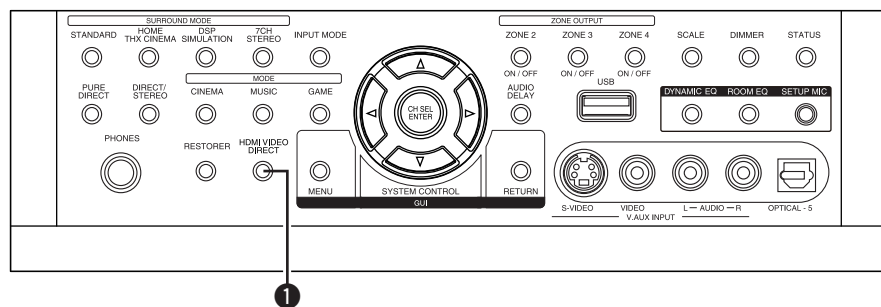
フロントパネル

AVC-A1HD　AVP-A1HD

【ドアを開いた状態】

リアパネル

AVC-A1HD

AVP-A1HD

各部の名前

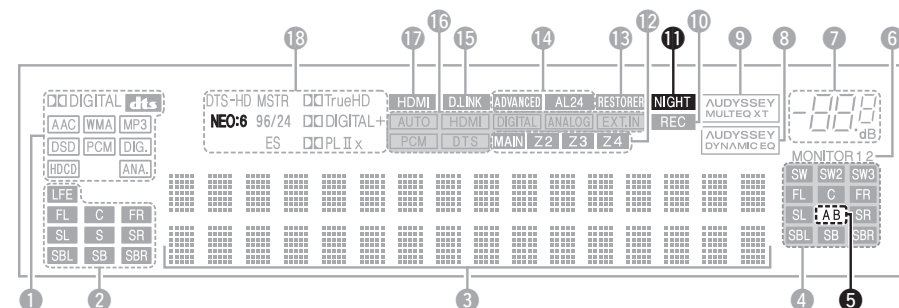
フロントパネル

アップグレードをおこなうと、NIGHT ボタンを押してもナイトモードの設定ができません。

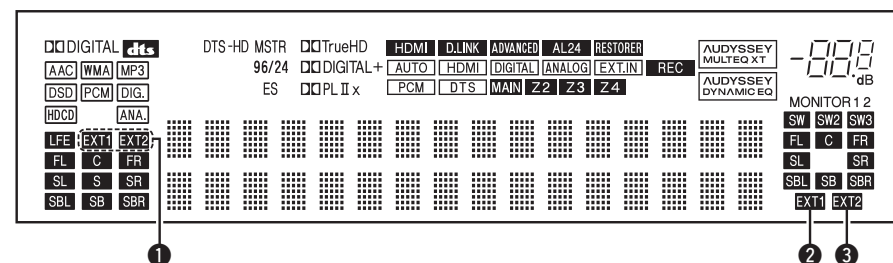
【ドアを開いた状態】

❶ HDMIビデオダイレクトボタン（HDMI VIDEO DIRECT）
このボタンを押すと、BDやDVDに収録されたビデオ信号をそのまま出力します。
HDMI IN端子から入力されたビデオ信号を本機で処理せず、ダイレクトにHDMI OUT端子へ出力します。

ビデオダイレクト機能をオンにすると、GUIメニューにおける一時表示はできません。

ディスプレイ

アップグレードをおこなうと、下記イラストのハイライト部分は点灯しません。

~~⑤ サラウンドスピーカー　表示~~
~~サラウンドスピーカー A/B の設定に合わせて点灯します（☞35 ページ）。~~

~~⓫ NIGHT 表示~~
~~ナイトモード選択時に点灯します（☞57 ページ）。~~

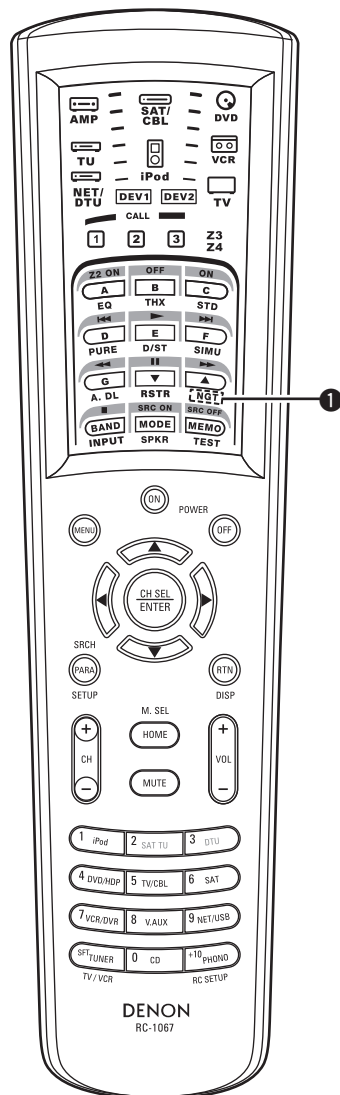
ご注意
アップグレードのあとは、DTS NEO:X 対応により NEO:6 表示は点灯しません。

❶ 入力信号チャンネル表示
入力信号に拡張チャンネルが 1 種類含まれる場合は EXT1 表示が点灯します。拡張チャンネルが 2 種類以上含まれる場合は、EXT1 と EXT2 表示が点灯します。

❷ フロントハイトスピーカー表示
フロントハイトスピーカーから音声が出力されているときに点灯します。

❸ フロントワイドスピーカー表示
フロントワイドスピーカーから音声が出力されているときに点灯します。

リモコン

アップグレードをおこなうと、NGT ボタンを押してもナイトモードの設定ができません。

❑ メインリモコン（RC-1067）

➊ **HDMI ビデオダイレクトボタン（NGT）**
このボタンを押すと、BD や DVD に収録されたビデオ信号をそのまま出力します。
HDMI IN 端子から入力されたビデオ信号を本機で処理せず、ダイレクトに HDMI OUT 端子へ出力します。

ビデオダイレクト機能をオンにすると、GUIメニューにおける一時表示はできません。

ご注意

3D 映像機器を構成している各ユニット（モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど）間の信号の伝送を無線通信（赤外線通信など）でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

接続のしかた

スピーカーの接続

設置

アップグレードをおこなうと、本機が対応するスピーカー構成が変更になります。

下表は、本機が対応している代表的なスピーカー構成です。

<table>
<tr><th rowspan="2">スピーカー／構成</th><th colspan="2">フロント</th><th rowspan="2">センター</th><th colspan="2">サラウンド</th><th colspan="3">サラウンドバック</th><th colspan="2">フロントハイト</th><th colspan="2">フロントワイド</th><th rowspan="2">サブウーハー（※2）</th></tr>
<tr><th>左</th><th>右</th><th>左</th><th>右</th><th>左</th><th>右</th><th>1本のみ</th><th>左</th><th>右</th><th>左</th><th>右</th></tr>
<tr><td rowspan="2">9.1チャンネル（※1）</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">－</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">7.1チャンネル</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="3">－</td><td>－</td><td>－</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="3">○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">－</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>6.1チャンネル</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td>5.1チャンネル</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td>3.1チャンネル</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td>2.1チャンネル</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td>2チャンネル</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
</table>

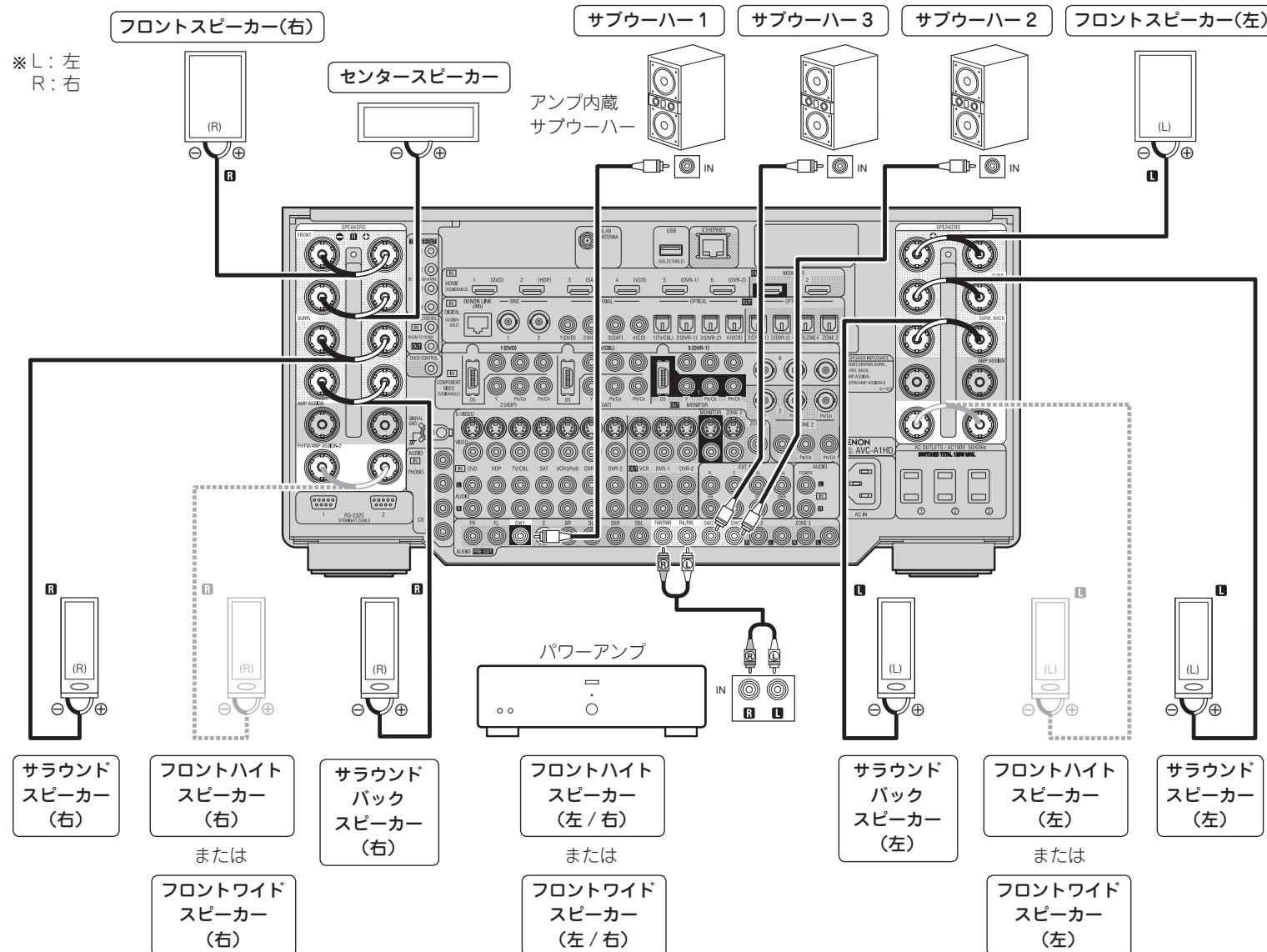
※1：フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを使用した 9.1 チャンネル再生をする場合には、別売りのパワーアンプが必要です。
※2：本機には、サブウーハーを 3 本まで接続できます。

接続

アップグレードをおこなうと、端子名および接続方法が変更になります。

- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。
- サブウーハーを 2 台または 3 台ご使用になる場合は、GUI メニューの "マニュアル設定" - "スピーカーの設定" - "サブウーハーの設定" をおこなってください（☞25 ページ）。

AVC-A1HD

ご注意

フロントハイトスピーカーとフロントワイドスピーカーは同時に使用できません。

ご注意

フロントハイトスピーカーとフロントワイドスピーカーは同時に使用できません。

AVP-A1HD

❑RCA プリアウト端子に接続する場合　【例】9.3 チャンネル

サブウーハー 1　サブウーハー 2　サブウーハー 3

※L：左
R：右

アンプ内蔵
サブウーハー

本機

POA-A1HD

フロント スピーカー（右）	フロントハイト / フロントワイド スピーカー（右）	サラウンド スピーカー（右）	サラウンド バック スピーカー（右）	センター スピーカー	サラウンド バック スピーカー（左）	サラウンド スピーカー（左）	フロントハイト / フロントワイド スピーカー（左）	フロント スピーカー（左）

❑XLR プリアウト端子に接続する場合　【例】9.3 チャンネル

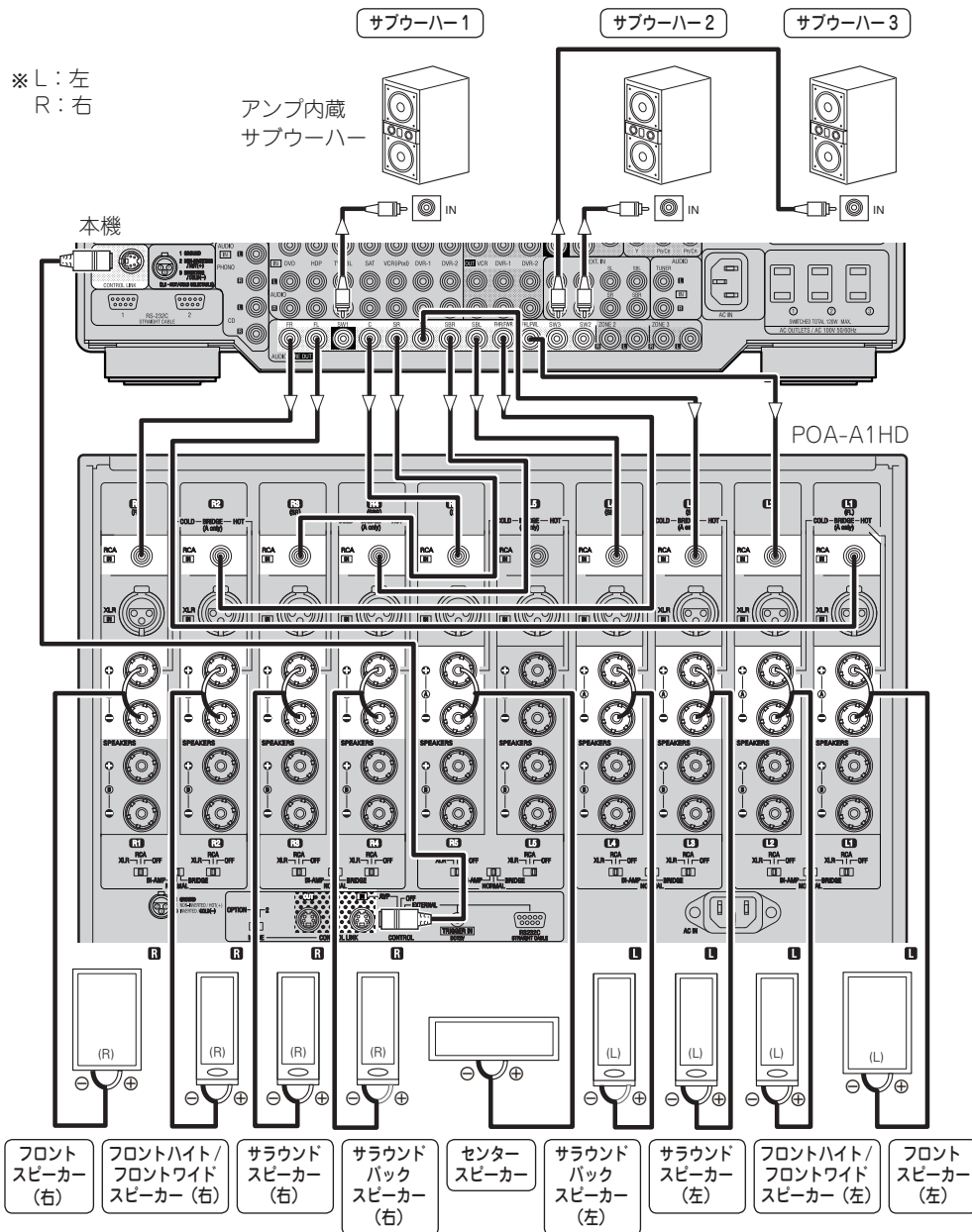
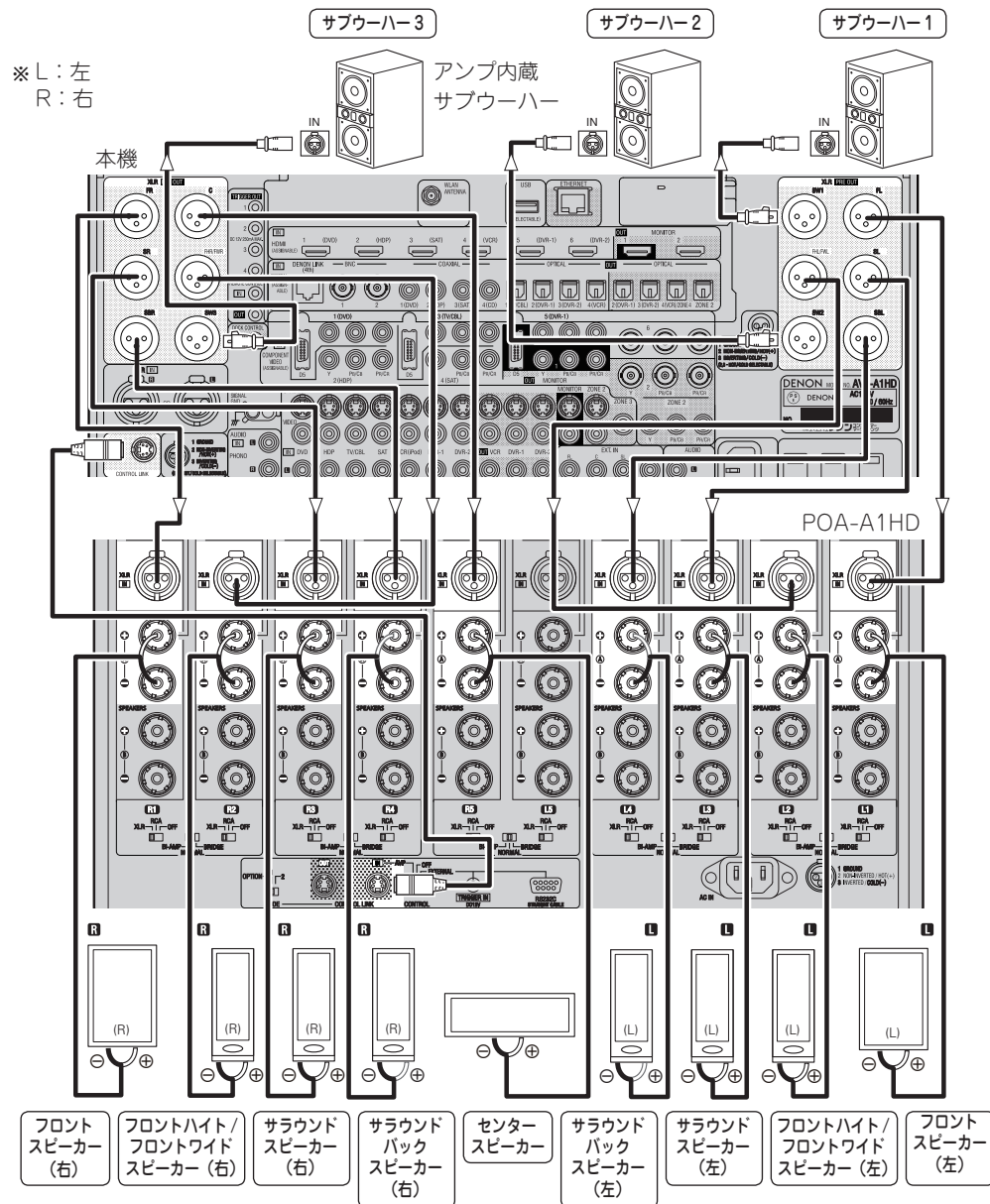
サブウーハー 3　サブウーハー 2　サブウーハー 1

※L：左
R：右

アンプ内蔵
サブウーハー

本機

POA-A1HD

フロント スピーカー（右）	フロントハイト / フロントワイド スピーカー（右）	サラウンド スピーカー（右）	サラウンド バック スピーカー（右）	センター スピーカー	サラウンド バック スピーカー（左）	サラウンド スピーカー（左）	フロントハイト / フロントワイド スピーカー（左）	フロント スピーカー（左）

ご注意

本機のバランス型 XLR プリアウト端子のピン配列のお買い上げ時の設定は、次のとおりです。
①：GROUND、②：HOT、③：COLD

HDMI 端子付き機器の接続

アップグレードをおこなうと、3D 映像の再生が可能になります。

3D 映像の再生には、本機の他に HDMI 1.4a 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。
また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

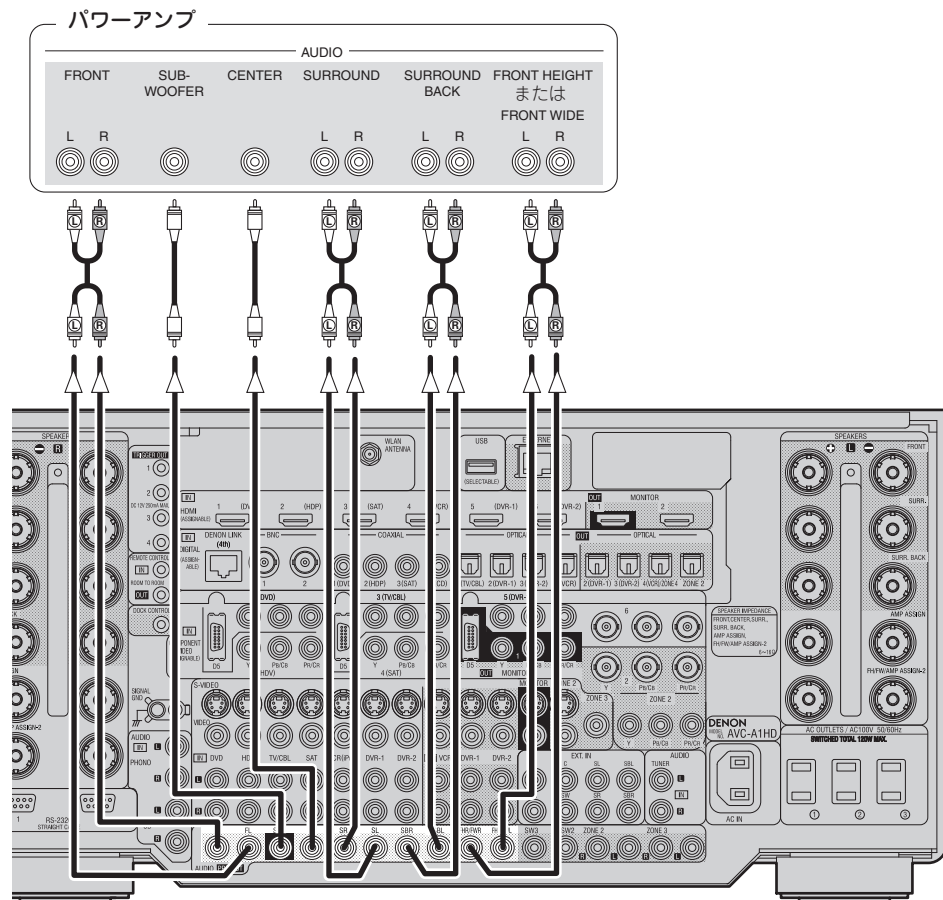
ご注意

- 3D 映像を再生するときは、本機の取扱説明書と一緒に 3D 映像機器の取扱説明書もご覧ください。
- 3D ビデオ信号を再生中にメニューの操作をおこなうと、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 3D ビデオ信号の再生中は、状態表示画面を表示しません。
- 3D 情報がない 3D 映像を入力した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面を重ねて表示します。
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像へ変換した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面は正しく表示しません。本機のメニュー画面および状態表示画面を正しくご覧になりたいときは、テレビの 2D 映像を 3D 映像へ変換する設定をオフにしてください。
- コンピューター解像度 (例 : VGA) の映像または 3D ビデオコンテンツの再生中は、状態表示画面を表示できません。
- コンピューター解像度 (例 : VGA) の映像または 3D ビデオコンテンツを再生中にメニュー操作すると、再生映像は、メニュー画面の映像に切り替わります。
- 3D 対応テレビと 3D 非対応テレビを同時に接続しているときに、3D 映像を再生したい場合は、“モニター出力”（☞36 ページ AVC-A1HD 、37 ページ AVP-A1HD）の設定を 3D 対応テレビを接続している端子に切り替えてからプレーヤーの再生をしてください。

その他の機器の接続

AVC-A1HD

外部のパワーアンプ

アップグレードをおこなうと、端子名および接続方法が変更になります。

サラウンドバックスピーカーを 1 本のみお使いになる場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。

GUI メニュー操作

AVC-A1HD

情報
（☞45 ページ）

- ❏ 現在の設定
  - メインゾーン
  - ゾーン 2/3/4
- ❏ 音声入力信号
- ❏ HDMI 情報
- ❏ オートサラウンドモード
- ❏ クイックセレクト
- ❏ プリセットチャンネル

サラウンドモード
（☞36 ～ 38 ページ）

- ❏ STEREO
- ❏ DIRECT
- ❏ STANDARD
- ❏ DOLBY HEADPHONE（ヘッドホンを使用している場合）
- ❏ DOLBY PLIIx、DOLBY PLII または DOLBY PL
- ❏ DOLBY PLIIz
- ❏ ~~DTS NEO:6~~
- ❏ DTS NEO:X
- ❏ HOME THX CINEMA
- ❏ 7CH STEREO
- ❏ WIDE SCREEN
- ❏ SUPER STADIUM
- ❏ ROCK ARENA
- ❏ JAZZ CLUB
- ❏ CLASSIC CONCERT
- ❏ MONO MOVIE
- ❏ VIDEO GAME
- ❏ MATRIX

オートセットアップ
（☞13 ～ 23 ページ）

- ❏ オートセットアップ
  - ステップ 1：準備
  - ステップ 2：スピーカー検出と測定
  - ステップ 3：測定
  - ステップ 4：解析
  - ステップ 5：解析結果
  - ステップ 6：保存
- ❏ オプション
  - ~~ルーム EQ~~
  - ダイレクトモード
  - ~~マイク選択~~
- ❏ パラメーター確認

GUI メニューマップ

ソース選択
（☞48 ～ 51 ページ）

- ❏ DVD, HDP, TV/CBL, SAT, VCR, DVR-1, DVR-2, V.AUX, CD, TUNER
  - プレイ（iPod）
  - 再生モード（iPod）
  - 端子の割り当て
  - ビデオ
  - 入力モード
  - 入力名の変更
  - ソースレベル
- ❏ NET/USB
  - プレイ
  - 再生モード
  - 静止画像
  - ビデオ
  - 入力モード
  - 入力名の変更
  - ソースレベル
- ❏ PHONO
  - ビデオ
  - 入力モード
  - 入力名の変更
  - ソースレベル

パラメーター
（☞39～44 ページ、58 ページ）

- ❏ 音声
  - サラウンドパラメーター
    - モード
    - デコーダー
    - シネマ EQ
    - DRC
    - ダイナミックレンジ圧縮
    - LFE
    - ~~センターイメージ~~
    - センターゲイン
    - パノラマ
    - ディメンション
    - センター幅
    - ディレイタイム
    - エフェクト
    - エフェクトレベル
    - ルームサイズ
    - AFDM
    - サラウンドバック
    - Height ゲイン
    - サブウーハーアッテネーター
    - サブウーハー
    - 初期化
  - トーンコントロール
    - トーンディフィート
    - 低音
    - 高音
    - フロント
    - センター
    - サラウンド
    - サラウンドバック
    - フロントハイト
    - フロントワイド
    - サブウーハー
  - ~~ルーム EQ~~
  - Audyssey 設定
    - MultEQ® XT 32
    - Dynamic EQ®
    - リファレンスレベルオフセット
    - Dynamic Volume®
    - 設定
  - A-DSX サウンドステージ
    - Audyssey DSX™
    - ステージウィドス
    - ステージハイト
  - RESTORER
  - ~~ナイトモード~~
  - オーディオディレイ
- ❏ 画質調整
  - コントラスト
  - ブライトネス
  - クロマレベル
  - 色合い
  - DNR
  - エンハンサー
  - シャープネス

【文字色について】
青文字：変更または追加
赤文字：削除

マニュアル設定
（☞24 ～ 35 ページ、36、37、39 ～ 43、47 ページ）

- ❏ スピーカーの設定（☞24 ～ 26 ページ）
  - スピーカー構成
    - フロント
    - センター
    - サブウーハー
    - ~~サラウンド A~~
    - ~~サラウンド B~~
    - サラウンド
    - サラウンドバック
    - フロントハイト
    - フロントワイド
  - サブウーハーの設定
  - 距離
  - チャンネルレベル
    - モード
    - ~~サラウンドスピーカー~~
    - スタート
    - 初期化
  - クロスオーバー周波数
  - THX の設定
  - ~~サラウンドスピーカーの設定~~
- ❏ HDMI 設定（☞36、37 ページ）
- ❏ 音声の設定（☞27、28 ページ）
  - 外部入力の設定
    - ~~サラウンドスピーカー~~
    - サブウーハーレベル
  - 2ch ダイレクト / ステレオ
  - ~~ダウンミックス設定~~
  - オートサラウンドモード
  - マニュアル EQ
  - バイリンガルモード
- ❏ ネットワーク設定（☞39 ～ 42 ページ）
- ❏ ゾーンの設定（☞43 ページ）
- ❏ その他の設定（☞29 ～ 35 ページ）
  - アンプの割り当て
  - 音量の設定
  - 使用ソースの選択
  - GUI
    - スクリーンセーバー
    - 壁紙
    - フォーマット
    - 操作内容の表示
    - 主音量表示
    - NET/USB
    - iPod
  - クイックセレクトネーム
  - トリガーアウト 1
  - トリガーアウト 2
  - トリガーアウト 3
  - トリガーアウト 4
  - トランスデューサの設定
  - デジタル出力
  - リモコン ID
  - ~~双方向リモコン~~
  - 232C ポート（1）
  - ディスプレイの明るさ
  - 設定の保護
  - メンテナンスモード
  - ファームウェアのアップデート
  - 新機能の追加
- ❏ 言語の設定（☞47 ページ）

AVP-A1HD

【文字色について】
青文字：変更または追加
赤文字：削除

情報
（☞45 ページ）

- ❑ 現在の設定
  - メインゾーン
  - ゾーン 2/3/4
- ❑ 音声入力信号
- ❑ HDMI 情報
- ❑ オートサラウンドモード
- ❑ クイックセレクト
- ❑ プリセットチャンネル

サラウンドモード
（☞36 ～ 38 ページ）

- ❑ STEREO
- ❑ DIRECT
- ❑ STANDARD
- ❑ DOLBY HEADPHONE
  （ヘッドホンを使用している場合）
- ❑ DOLBY PLⅡx、DOLBY PLⅡ
  または DOLBY PL
- ❑ DOLBY PLⅡz
- ❑ ~~DTS NEO:6~~
- ❑ DTS NEO:X
- ❑ HOME THX CINEMA
- ❑ 7CH STEREO
- ❑ WIDE SCREEN
- ❑ SUPER STADIUM
- ❑ ROCK ARENA
- ❑ JAZZ CLUB
- ❑ CLASSIC CONCERT
- ❑ MONO
- ❑ VIDEO GAME
- ❑ MATRIX

オートセットアップ
（☞13 ～ 23 ページ）

- ❑ オートセットアップ
  - ステップ 1：準備
  - ステップ 2：スピーカー検出と測定
  - ステップ 3：測定
  - ステップ 4：解析
  - ステップ 5：解析結果
  - ステップ 6：保存
- ❑ オプション
  - ~~ルーム EQ~~
  - ダイレクトモード
  - ~~マイク選択~~
- ❑ パラメーター確認

ソース選択
（☞📖48 ～ 51 ページ）

- ❑ DVD, HDP, TV/CBL, SAT, VCR, DVR-1, DVR-2, V.AUX, CD, TUNER
  - プレイ（iPod）
  - 再生モード（iPod）
  - 端子の割り当て
  - ビデオ
  - 入力モード
  - 入力名の変更
  - ソースレベル
  - 入力アッテネーター
- ❑ NET/USB
  - プレイ
  - 再生モード
  - 静止画像
  - ビデオ
  - 入力モード
  - 入力名の変更
  - ソースレベル
- ❑ PHONO
  - ビデオ
  - 入力モード
  - 入力名の変更
  - ソースレベル
  - 入力アッテネーター

パラメーター
（☞39～44 ページ、📖58 ページ）

- ❑ 音声
  - サラウンドパラメーター
    - モード
    - デコーダー
    - シネマ EQ
    - DRC
    - ダイナミックレンジ圧縮
    - LFE
    - ~~センターイメージ~~
    - センターゲイン
    - パノラマ
    - ディメンション
    - センター幅
    - ディレイタイム
    - エフェクト
    - エフェクトレベル
    - ルームサイズ
    - AFDM
    - サラウンドバック
    - Height ゲイン
    - 入力チャンネル
    - サブウーハーアッテネーター
    - サブウーハー
    - 初期化
  - トーンコントロール
    - トーンデフィート
    - 低音
    - 高音
    - フロント
    - センター
    - サラウンド
    - サラウンドバック
    - フロントハイト
    - フロントワイド
    - サブウーハー
  - ~~ルーム EQ~~
  - Audyssey 設定
    - MultEQ® XT 32
    - Dynamic EQ®
    - リファレンスレベルオフセット
    - Dynamic Volume®
    - 設定
  - A-DSX サウンドステージ
    - Audyssey DSX™
    - ステージウィドス
    - ステージハイト
  - RESTORER
  - ~~ナイトモード~~
  - オーディオディレイ
- ❑ 画質調整
  - コントラスト
  - ブライトネス
  - クロマレベル
  - 色合い
  - DNR
  - エンハンサー
  - シャープネス

マニュアル設定
（☞24 ～ 35 ページ、📖36、37、40 ～ 43、47 ページ）

- ❑ スピーカーの設定
  （☞24 ～ 26 ページ）
  - スピーカー構成
    - フロント
    - センター
    - サブウーハー
    - ~~サラウンド A~~
    - ~~サラウンド B~~
    - サラウンド
    - サラウンドバック
    - フロントハイト
    - フロントワイド
  - サブウーハーの設定
  - 距離
  - チャンネルレベル
    - モード
    - ~~サラウンドスピーカー~~
    - スタート
    - 初期化
  - クロスオーバー周波数
  - THX の設定
  - ~~サラウンドスピーカーの設定~~
- ❑ HDMI 設定
  （☞📖36、37 ページ）
- ❑ 音声の設定 （☞27、28 ページ）
  - 外部入力の設定
    - モード
    - サラウンドバック入力
    - ~~サラウンドスピーカー~~
    - サブウーハーレベル
    - 入力アッテネーター
  - 2ch ダイレクト / ステレオ
  - ~~ダウンミックス設定~~
  - オートサラウンドモード
  - マニュアル EQ
  - バイリンガルモード
- ❑ ネットワーク設定
  （☞📖40 ～ 42 ページ）
- ❑ ゾーンの設定
  （☞📖42、43 ページ）
- ❑ その他の設定
  （☞29 ～ 35 ページ）
  - プリアウトの割り当て
  - XLR 出力の極性
  - POA の設定
  - 音量の設定
  - 使用ソースの選択
  - GUI
    - スクリーンセーバー
    - 壁紙
    - フォーマット
    - 操作内容の表示
    - 主音量表示
    - NET/USB
    - iPod
  - クイックセレクトネーム
  - トリガーアウト 1
  - トリガーアウト 2
  - トリガーアウト 3
  - トリガーアウト 4
  - トランスデューサの設定
  - デジタル出力
  - リモコン ID
  - ~~双方向リモコン~~
  - 232C ポート（1）
  - ディスプレイの明るさ
  - 設定の保護
  - メンテナンスモード
  - ファームウェアのアップデート
  - 新機能の追加
- ❑ 言語の設定 （☞📖47 ページ）

オートセットアップ

アップグレードをおこなうと、“オートセットアップ”の内容が初期化されます。
“オートセットアップ”の設定をおこなう場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧になって操作してください。

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“オートセットアップ”と呼びます。
測定は、リスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。
最善の結果を得るためには、6箇所以上（最大で8箇所）で測定することをおすすめします。

- オートセットアップをおこなうと、MultEQ® XT 32/Dynamic EQ®/Dynamic Volume®の機能（☞42、43ページ）が有効になります。
- 手動でスピーカーを設定したい場合は、GUIメニューの“スピーカーの設定”（☞24ページ）でおこなってください。

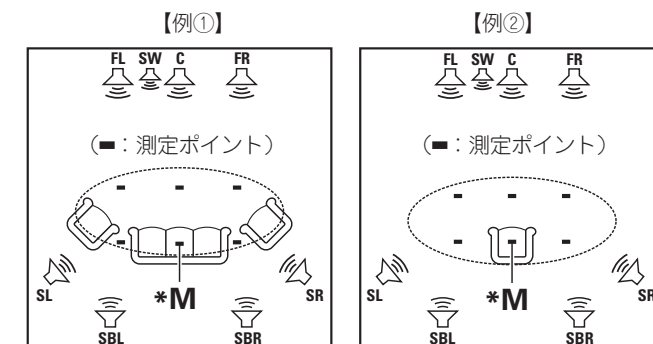
ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品（テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など）の電源を切ってください。測定の際、これらの騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、オートセットアップが完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中に本体の **MASTER VOLUME** つまみおよびメインリモコンの **VOL +/–** ボタンを操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。
  最善の結果を得るため、図のように6箇所またはそれ以上（最大で8箇所）で測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例①】

【例②】

FL：	フロントスピーカー（左）	SL：	サラウンドスピーカー（左）
FR：	フロントスピーカー（右）	SR：	サラウンドスピーカー（右）
C：	センタースピーカー	SBL：	サラウンドバックスピーカー（左）
SW：	サブウーハー	SBR：	サラウンドバックスピーカー（右）

❑ メインリスニングポイント（* M）について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときに座る位置です。オートセットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。
Audyssey MultEQ® XT 32は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

オートセットアップをはじめる前に

1 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❏ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❏ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合

次のように設定してください。

- 音量の設定：“12 時”の位置
- クロスオーバー周波数の設定：“最大 / 最高周波数”
- ローパスフィルターの設定：“オフ”
- スタンバイモードの設定：“オフ”

2 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

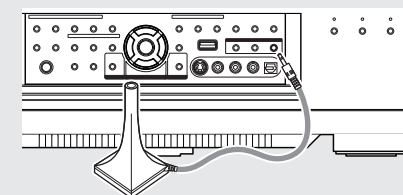
オートセットアップをはじめるときは、必ず付属のセットアップマイク（DM-A409）をご使用ください。
アップグレード前のセットアップマイク（DM-A505Z）を使用すると正しく測定できません。

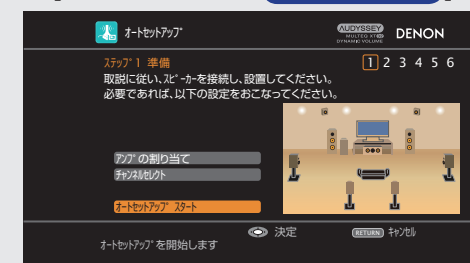
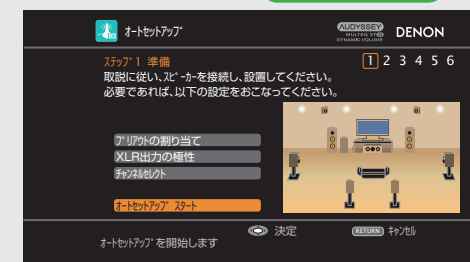
三脚やスタンドがない場合は、背もたれのない椅子などに設置してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

3 セットアップマイクを接続する

セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。

セットアップマイクを接続すると、テレビにセットアップ画面を表示します。

【セットアップ画面 **AVC-A1HD**】

【セットアップ画面 **AVP-A1HD**】

ステップ 1 準備

- 必要に応じて、次の設定をおこなってください。
- 次の設定をおこなわずにオートセットアップを開始する場合は、手順 4 のみおこない、ステップ 2 へ進んでください。

❑ アンプの割り当て AVC-A1HD

接続したスピーカー構成に合わせて、パワーアンプの使用方法を選びます。
GUI メニューの“アンプの割り当て”を“通常”以外に設定するときに選んでください。

❑ プリアウトの割り当て AVP-A1HD

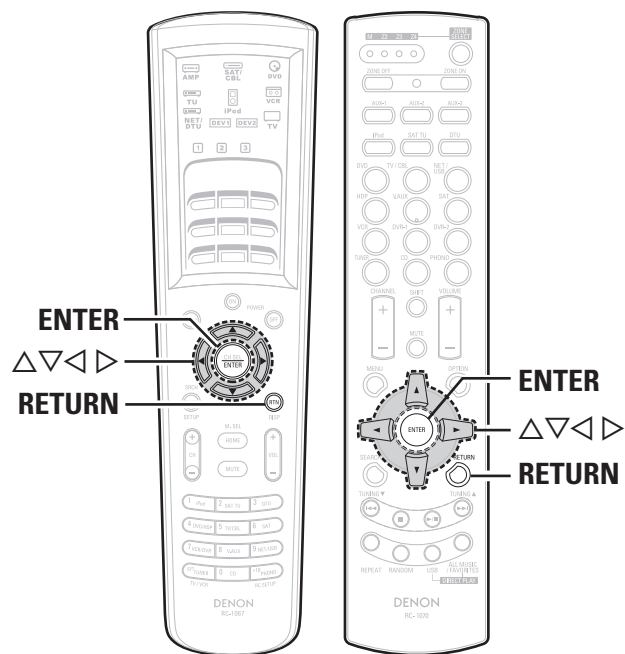
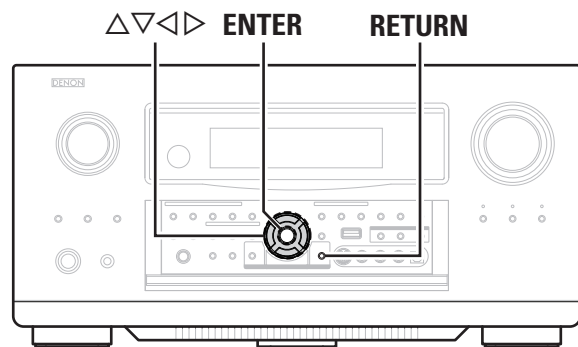
プリアウトの割り当てを変更します。

❑ XLR 出力の極性 AVP-A1HD

XLR 端子の極性を切り替えます。

❑ チャンネルセレクト AVC-A1HD AVP-A1HD

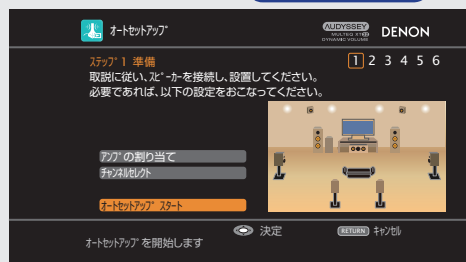
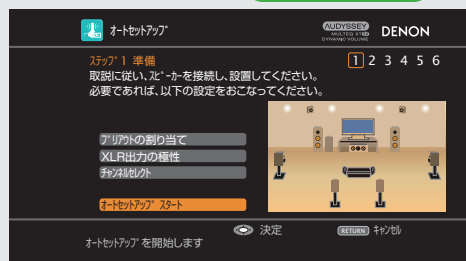
あらかじめ測定するスピーカーを選択すると、測定時間を短縮できます。必要に応じて設定してください。
サブウーハーを 2 台または 3 台測定する場合も“チャンネルセレクト”の設定をしてください。

- “フロントハイト”は、GUI メニューの“アンプの割り当て”－“アサインモード”設定（☞29 ページ）が“フロントハイト”、かつ“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）が“フロントハイト”のときに表示します。
- “フロントワイド”は、GUI メニューの“アンプの割り当て”－“アサインモード”設定（☞29 ページ）が“フロントワイド”、かつ“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）が“フロントワイド”のときに表示します。

（メインリモコン）（サブリモコン）

1 各種設定をおこなう

△▽ ボタンを押して設定したい項目を選び、ENTER ボタンを押す。

選択した設定のメニュー画面を表示します。

【セットアップ画面 AVC-A1HD】

【セットアップ画面 AVP-A1HD】

※設定できる項目の詳細については、15 ページをご覧ください。

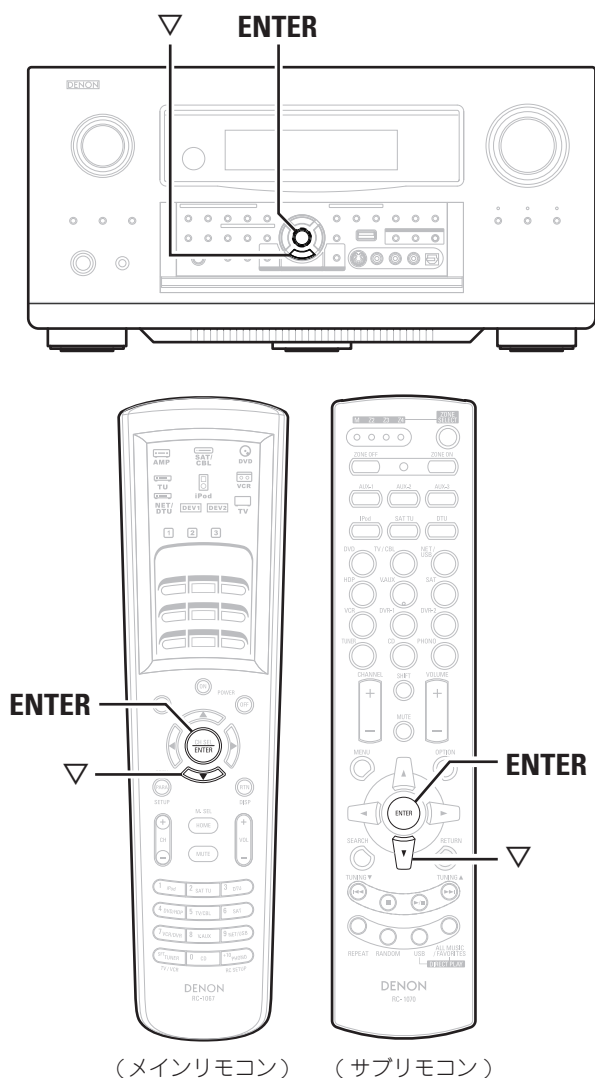
2 △▽◁▷ ボタンを押して設定する。

3 RETURN ボタンを押して前の画面に戻る。

4 オートセットアップをはじめる

△▽ ボタンを押して“オートセットアップスタート”を選び、ENTER ボタンを押す。

「ステップ 2 スピーカー検出と測定（メインリスニングポイント）」（☞17 ページ）へ進みます。

（メインリモコン）　（サブリモコン）

ステップ 2 スピーカー検出と測定
（メインリスニングポイント）

- ステップ 2 では、サブウーハーの音量レベルの測定、およびメインリスニングポイントの測定をします。
- ここでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。
- 付属のセットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。

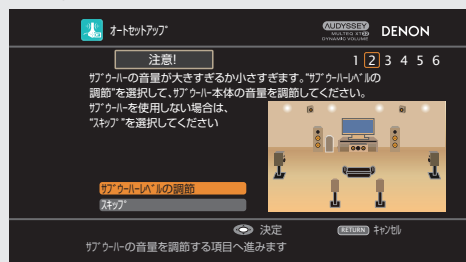
1 サブウーハーの音量レベルを測定する

“測定”を選び、ENTER ボタンを押す。

サブウーハーの音量レベルを測定します。

※GUI メニューの“チャンネルセレクト”–“サブウーハー”を“スキップ”に設定している場合は、サブウーハーの音量レベルは測定できません。

※サブウーハーを 2 台または 3 台ご使用になる場合は、それぞれの音量レベルを測定してください。

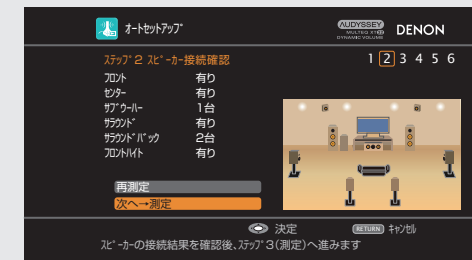
※サブウーハーの音量レベルを測定したあと、下記のエラーメッセージが表示された場合は、「サブウーハーの音量レベルを調節する」（☞18 ページ）でサブウーハーの音量レベルを調節してください。

2 メインリスニングポイントの測定をおこなう

サブウーハーの音量レベルの測定が完了すると、自動的に接続しているスピーカーを検出します。

※「ステップ 1 準備」（☞15 ページ）の設定内容により、測定するチャンネルが変わります。

※スピーカーの測定が完了するまで、数分間かかります。

3 検出されたスピーカーを表示します。

※次の図は、フロントスピーカー / センタースピーカー / サブウーハー / サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー / フロントハイトスピーカーを検出したときの表示例です。

※接続しているスピーカーが検出されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

※再測定するときは、▽ ボタンを押して“再測定”を選び、**ENTER** ボタンを押してください。

4 ▽ ボタンを押して“次へ→測定”を選び、ENTER ボタンを押す。

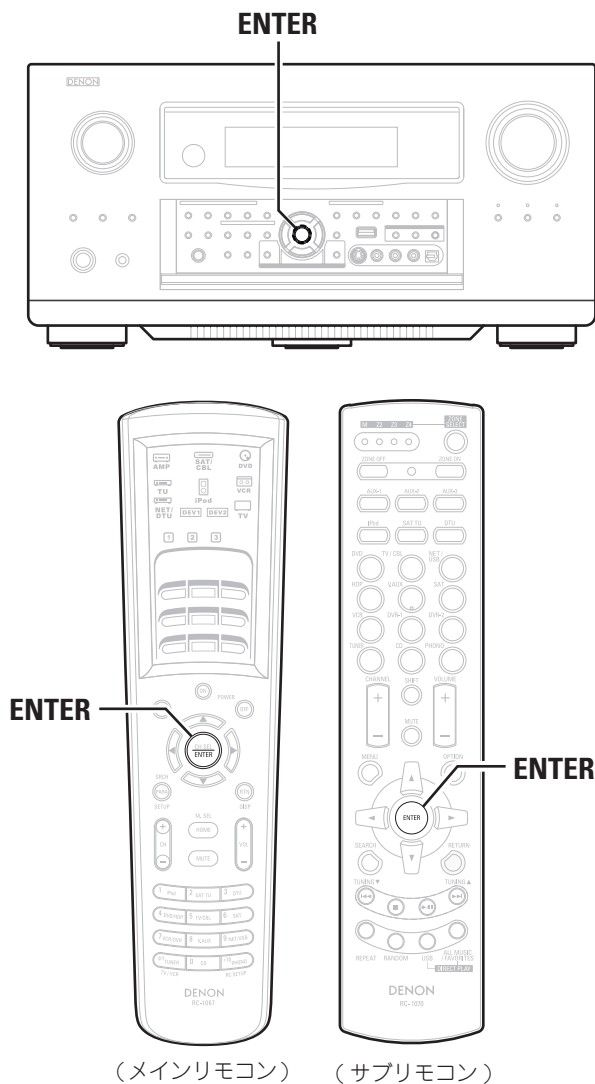
「ステップ 3 測定（2 箇所目以降）」（☞19 ページ）へ進みます。

ご注意

テレビ画面に“注意！”が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞22 ページ）をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。エラーが解決したあとで、再びオートセットアップをおこなってください。

❑ 測定を中止するとき

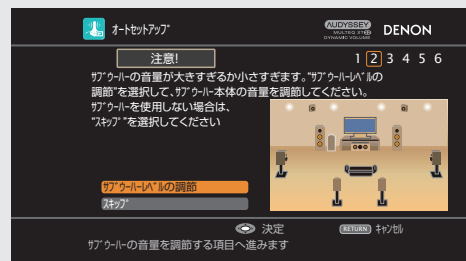
ENTER ボタンを押す。

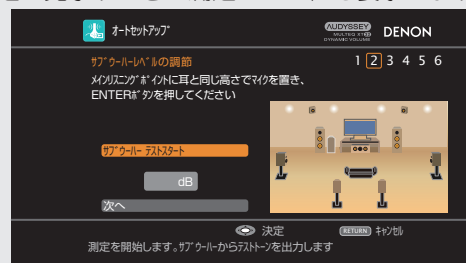
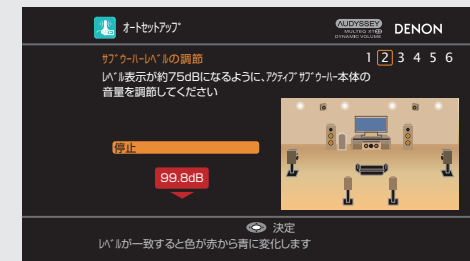
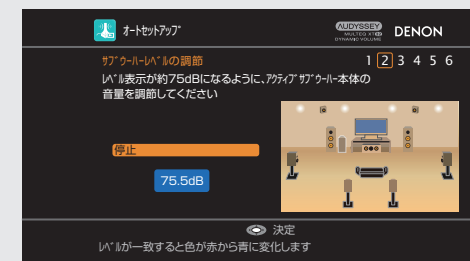
（メインリモコン）　（サブリモコン）

❑ サブウーハーの音量レベルを調節する

最適なサブウーハーの音量レベルは、75dB です。
「サブウーハーの音量レベルを測定する」（☞17 ページ）で、サブウーハーの音量レベルが 72 ～ 78dB 以外のときにエラーメッセージを表示します。
エラーメッセージが表示された場合は、次の方法でサブウーハーの音量レベルを 72 ～ 78dB 以内になるように調節してください。

✎

サブウーハーを 2 台または 3 台ご使用になる場合は、それぞれのサブウーハーの音量レベルが 72 ～ 78dB 以内になるように調節してください。

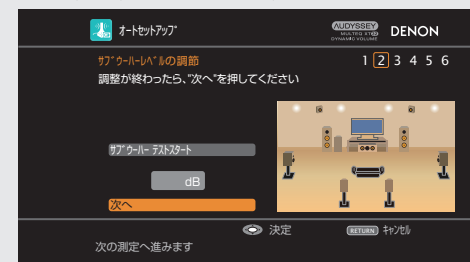
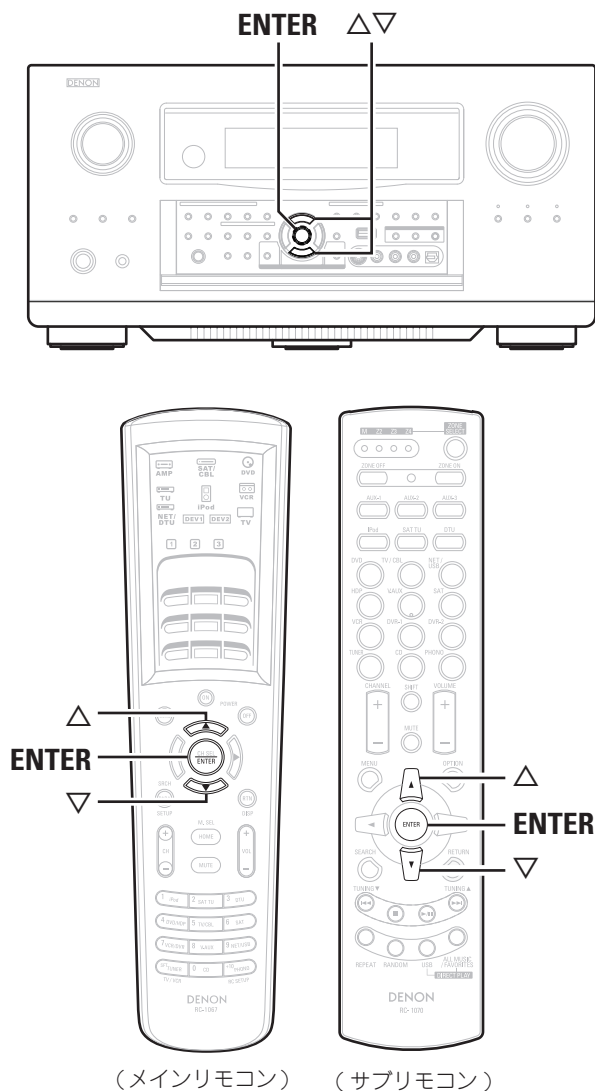
1 **“サブウーハーレベルの調節” を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 **“サブウーハーテストスタート” を選び、ENTER ボタンを押す。**

サブウーハーの音量レベルを測定します。
測定を開始すると、“テスト中…” を表示します。
測定が完了すると、測定レベル値を表示します。

3 **お手持ちのサブウーハーで、レベル表示が 72 ～ 78dB 以内になるように、サブウーハーの音量レベルを調節する。**

※測定レベル値が 72 ～ 78dB 以外のときは、レベル表示部が赤色になります。
※測定を中止する場合は、ENTER ボタンを押してください。

※測定レベル値が 72 ～ 78dB 以内になると、レベル表示部が青色になります。

4 **測定レベル値が 72 ～ 78dB 以内になったら、ENTER ボタンを押す。**

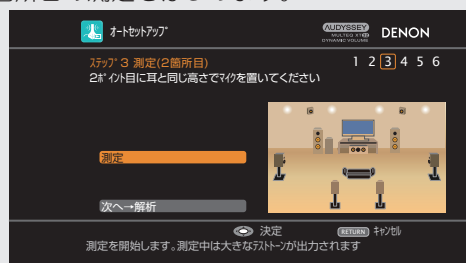
5 **“次へ” を選び、ENTER ボタンを押す。**

「ステップ 2 スピーカー検出と測定（メインリスニングポイント）」（☞17 ページ）の手順 2 へ進みます。

（メインリモコン）　（サブリモコン）

ステップ 3　測定（2 箇所目以降）

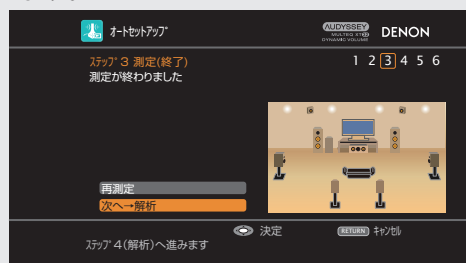
- ステップ 3 では、メインリスニングポイント以外の複数のポイント（2 ～ 8 箇所目）を測定します。最大 8 箇所まで測定できます。
- 複数のポイントを測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。
- 付属のセットアップマイクは、測定するポイントへ移動してください。

1 **2 箇所目にセットアップマイクを移動させ、△▽ ボタンを押して “測定” を選び、ENTER ボタンを押す。**

2 箇所目の測定をはじめます。

※2 箇所目以降の測定を省略する場合は、▽ ボタンを押して “次へ→解析” を選び、**ENTER** ボタンを押してください。「ステップ 4 解析」へ進みます。

2 **手順 1 をくり返して 3 ～ 8 箇所目を測定する。**

8 箇所目の測定が完了すると、“測定が終わりました” を表示します。

※再測定するときは、▽ ボタンを押して “再測定” を選び、**ENTER** ボタンを押してください。1 つ前のポイントを再測定します。

3 **▽ ボタンを押して “次へ→解析” を選び、ENTER ボタンを押す。**

「ステップ 4 解析」（☞19 ページ）へ進みます。

ご注意

テレビ画面に “注意！” が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞22 ページ）をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。エラーが解決したあとで、再びオートセットアップをおこなってください。

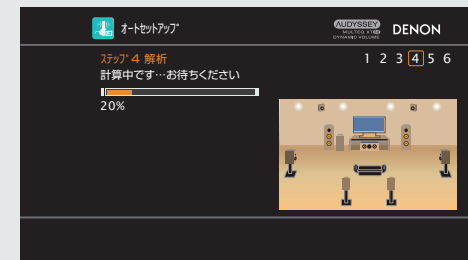
❑ 測定を中止するとき

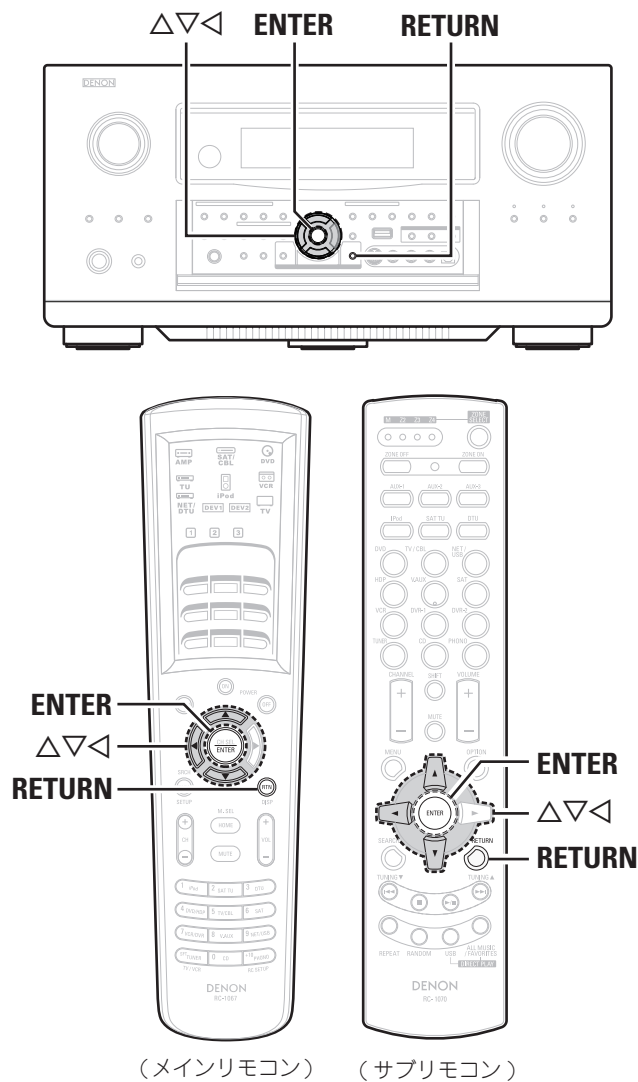
ENTER ボタンを押す。

ステップ 4　解析

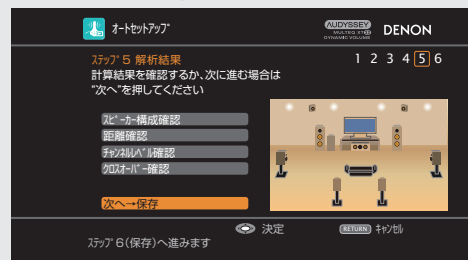
ステップ 4 では、ステップ 2 およびステップ 3 で測定した結果を解析します。

測定が完了したら、▽ ボタンを押して “次へ→解析” を選び、ENTER ボタンを押す。

ステップ 2 およびステップ 3 で測定した結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

※解析が完了するまで、数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。接続するスピーカーの数と測定ポイントが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

（メインリモコン）　（サブリモコン）

ステップ 5　解析結果

ステップ 5 では、ステップ 4 で解析した結果を確認します。

1 **△▽ ボタンを押して確認したい項目を選び、ENTER ボタンを押す。**

※実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

※他の項目を確認する場合は、**RETURN** ボタンを押し、確認したい項目を選んでください。

2 **▽ ボタンを押して“次へ→保存”を選び、ENTER ボタンを押す。**

「ステップ 6 保存」（☞20 ページ）へ進みます。

ご注意

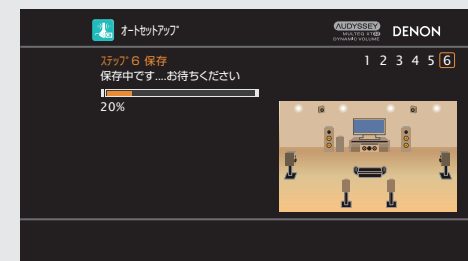
- 接続している状態と異なる結果やテレビ画面に“注意！”が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞22 ページ）をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。エラーが解決したあとで、再びオートセットアップをおこなってください。
- 再測定後も接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再びオートセットアップをおこなってください。

ステップ 6　保存

ステップ 6 では、ステップ 2 およびステップ 3 で測定した結果を保存します。

“保存”を選び、ENTER ボタンを押す。

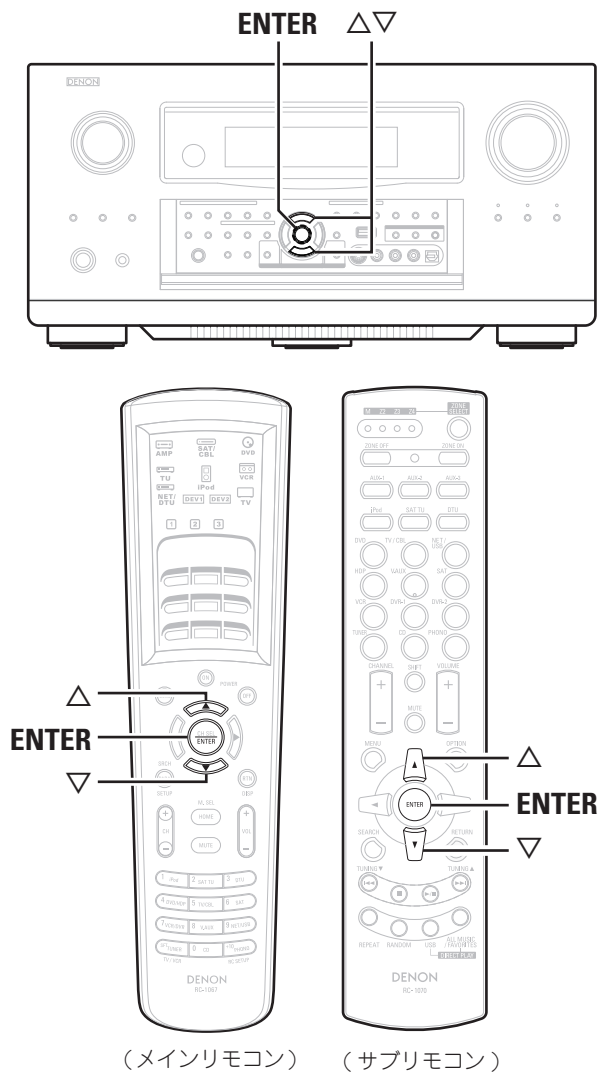
測定結果を保存します。

⇩

※保存が完了するまで、20 秒程度かかります。

※測定結果を保存しないときは、**RETURN** ボタンを押してください。“オートセットアップを中止しますか？”を表示しますので、◁ ボタンを押して“はい”を選んでください。すべてのオートセットアップの測定結果を消去します。

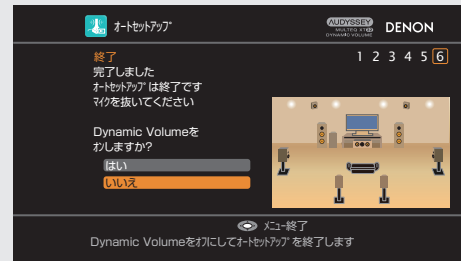
ご注意

測定結果を保存中は、絶対に電源を切らないでください。

（メインリモコン）　（サブリモコン）

終了

オートセットアップを終了します。

1 本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。

2 Dynamic Volume® 機能の設定をする。

※Dynamic Volume® は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切なボリュームコントロールを自動的におこないます。

❑ Dynamic Volume® 機能の設定をするとき

△ ボタンを押して“はい”を選び、**ENTER** ボタンを押してください。自動的に“Evening”モードになります。

❑ Dynamic Volume® 機能の設定をしないとき

▽ ボタンを押して“いいえ”を選び、**ENTER** ボタンを押してください。

ご注意

- オートセットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、再びオートセットアップをおこなってください。
- 2 台または 3 台のサブウーハーを使用してオートセットアップをおこなったあとに、それぞれのサブウーハーの距離と音量を変更しないでください。

エラーメッセージについて

ご注意

- スピーカーの設置や測定環境などによりオートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。エラーが解決したあとで、再びオートセットアップをおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ（例）	エラーの内容	エラーの処理方法
オートセットアップ AUDYSSEY MULTEQ XT32 DYNAMIC VOLUME DENON 注意! 1 2 3 4 5 6 サブウーハーの音量が大きすぎるか小さすぎます。"サブウーハーレベルの調節"を選択して、サブウーハー本体の音量を調節してください。 サブウーハーを使用しない場合は、"スキップ"を選択してください サブウーハーレベルの調節 スキップ	●サブウーハーの音量が適切でないため、正しく測定できません。	●アンプ内蔵のサブウーハー（アクティブ方式）をご使用の場合は、「サブウーハーの音量レベルを調整する」（☞18 ページ）でサブウーハーの音量を調節してください。 ●アンプが内蔵されていないサブウーハーをご使用の場合は、“スキップ”を選び、**ENTER** を押してください。
オートセットアップ AUDYSSEY MULTEQ XT32 DYNAMIC VOLUME DENON 注意! マイクが挿されていないか、スピーカーがありません 再測定	●接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 ●接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 ●フロントスピーカー（左）が正しく検出されない。	●付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。
オートセットアップ AUDYSSEY MULTEQ XT32 DYNAMIC VOLUME DENON 注意! 暗騒音が大きすぎるか出力レベルが小さすぎます 再測定	●部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 ●スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	●騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 ●周囲がより静かなときに再度おこなってください。 ●スピーカーの設置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
オートセットアップ AUDYSSEY MULTEQ XT32 DYNAMIC VOLUME DENON 注意! 1 2 3 4 5 6 フロント右 無し 再測定	●表示されたスピーカーが検出されない。 （左の画面は、フロント右スピーカーが検出できないことをあらわします。）	●表示されたスピーカーの接続を確認してください。
オートセットアップ AUDYSSEY MULTEQ XT32 DYNAMIC VOLUME DENON 注意! 1 2 3 4 5 6 フロント右 位相逆 再測定 スキップ	●表示されたスピーカーの位相が逆である。 （左の画面は、フロント右スピーカーの位相が逆になっていることをあらわします。）	●表示されたスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、△▽ ボタンを押して“スキップ”を選び、**ENTER** ボタンを押してください。

2 オプション

ダイレクトモードの設定をします。

ダイレクトモード

DIRECT や PURE DIRECT モードで、MultEQ® XT 32 を使用するかどうかを設定します。

【選択できる項目】 オン オフ

3 パラメーター確認

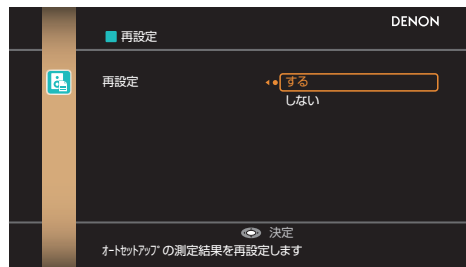
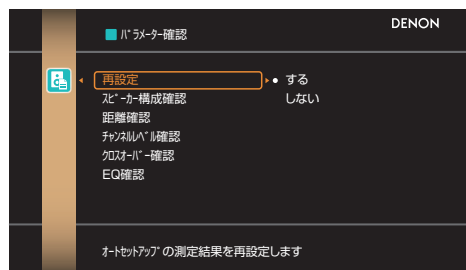
オートセットアップの測定結果やイコライザーの種類を確認します。
（このメニュー項目は、オートセットアップをおこなわないと表示されません。）

【選択できる項目】

スピーカー構成確認 距離確認 チャンネルレベル確認 クロスオーバー確認 EQ 確認 再設定

- “EQ 確認” を選んだ場合は、△▽ ボタンを押して確認したい補正カーブ（“Audyssey” または “Audyssey Flat”）を選び、**ENTER** ボタンまたは ▷ ボタンを選んでください。
  △▽ ボタンを押すと、各スピーカーの表示を切り替えられます。
- “再設定” を選ぶと、各設定を手動で変更した場合でもオートセットアップの結果（MultEQ® XT 32 が当初計算した値）に戻せます。

⇩

ご使用になる前に
接続のしかた
セットアップ
その他の操作や機能
アンプアサインとマルチゾーン
その他の情報
故障かな？と思ったら
主な仕様

マニュアル設定

いろいろなパラメーターの詳細な設定をおこないます。

**アップグレードをおこなうと、“スピーカーの設定”の内容が変更されます。
“スピーカーの設定”の設定をおこなう場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧になって操作してください。**

スピーカーの設定

スピーカーを手動で設定する場合、またはオートセットアップで設定された内容を変更する場合におこなってください。

● メニュー階層 ●

- マニュアル設定
  - スピーカーの設定
    - 1 スピーカー構成
    - 2 サブウーハーの設定
    - 3 距離
    - 4 チャンネルレベル
    - 5 クロスオーバー周波数
    - 6 THXの設定

1 スピーカー構成

スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。

フロント

フロントスピーカーの大きさを選びます。

【選択できる項目】 大 小

センター

センタースピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 大 小 無し

サブウーハー

サブウーハーの有り・無しを選びます。

【選択できる項目】 有り 無し

サラウンド

サラウンドスピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 大 小 無し

サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーの有り·無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 大 小 無し

2台 1台

大 ：低音域を十分に再生できる能力があるスピーカーを使用するときに選びます。

小 ：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用するときに選びます。

フロントハイト

フロントハイトスピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 大 小 無し

フロントワイド

フロントワイドスピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 大 小 無し

- “大”と“小”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、“クロスオーバー周波数”で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください（☞26 ページ）。
- “フロント”を“小”に設定すると、“サブウーハー”の設定は自動的に“有り”になります。
- “サブウーハー”を“無し”に設定すると、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。
- “サラウンド”を“無し”に設定すると、“サラウンドバック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”の設定は自動的に“無し”になります。
- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用する場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。
- サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、“フロント”、“センター”および“サラウンド”の各スピーカーの設定を“小”にしても良好な音場再生を得ることができます。
- “フロントハイト”は、GUI メニューの“その他の設定”-“アンプの割り当て”-“アサインモード”設定（☞29 ページ）が“フロントハイト”または“その他の設定”-“アンプの割り当て”-“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）が“フロントハイト”のときに設定できます。
- “フロントワイド”は、GUI メニューの“その他の設定”-“アンプの割り当て”-“アサインモード”設定（☞29 ページ）が“フロントワイド”または“その他の設定”-“アンプの割り当て”-“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）が“フロントワイド”のときに設定できます。

2 サブウーハーの設定

サブウーハーの出力構成と再生する低音域信号を選びます。

構成

サブウーハーの本数や構成を選びます。

【選択できる項目】 1SP 2SP L/R 2SP MIX 3SP L/R/LFE 3SP MIX

サブウーハー構成		サブウーハー端子
1SP		SW1
2SP L/R	L	SW1
	R	SW2
2SP MIX	1	SW1
	2	SW2
3SP L/R/LFE	L	SW1
	R	SW2
	LFE	SW3
3SP MIX	1	SW1
	2	SW2
	3	SW3

"2SP MIX"と"3SP MIX"を選ぶと、"サブウーハー1" "サブウーハー2"、"サブウーハー3"がそれぞれ表示されます。

モード

サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

【選択できる項目】 LFE-THX- LFE+ メイン

- "LFE-THX-"モードは、室内の低音域干渉が起こりにくくなるため、THX再生に適しています。
- GUIメニューの"スピーカー構成" - "サブウーハー"の設定が"有り"のときに設定できます。
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られる方のモードを選んでください。
- 常にサブウーハーから低音域信号を出力したい場合は、"LFE+メイン"を選んでください。

3 距離

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
設定をおこなう前に、リスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測っておいてください。

メートル / フィート

距離の単位を選びます。

ステップ

ステップ（最小可変距離）を切り替えます。

【選択できる項目】

0.1m 0.01m ："メートル"のときに表示されます。
1ft 0.1ft ："フィート"のときに表示されます。

初期化

設定を初期化します。

距離の設定

設定したいスピーカーを選び、距離を設定します。
測定した距離に最も近い値に設定してください。

【可変できる範囲】

0.00m～18.00m ："メートル"のときに表示されます。
0.0ft～60.0ft ："フィート"のときに表示されます。

THXウルトラ2シネマモード、THXミュージックモードおよびTHXゲームズモードをお楽しみいただく場合には、サラウンドバックスピーカーは2台必要です。リスニングポイントからサラウンドバックスピ ーカーまでの距離がL、R等距離になるように置いてください。また、FL/FR、SL/SR、SBL/SBR、FHL/FHR、FWL/FWRはそれぞれのLとRのリスニングポイントからの距離の差が60cm以下になるように設置することをおすすめします。

ご注意

各スピーカーとの間隔は、6.00m（20.0ft）以下に設定してください。

4 チャンネルレベル

すべてのスピーカーからの音量が同じになるように各チャンネルのレベルを調節します。

モード

テストトーンの再生方法を選びます。

【選択できる項目】 オート マニュアル

スタート

テストトーンを出力します。

【可変できる範囲】 -12dB ~ 0dB ~ +12dB オフ*

*： サブウーハーの音量が"-12dB"のときに◁ボタンを押すと、サブウーハーの音量を"オフ"にすることができます。

初期化

設定を初期化します。

 メインリモコンでも操作できます

テストトーンによる調節は、下記の通りメインリモコンからでもおこなえます。
メインリモコンでのテストトーンによる調節は“オート”のみで、STANDARD(Dolby/DTS サラウンド)および HOME THX CINEMA モード時に有効です。調節したレベルは各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

① **TEST** ボタンを押す。
　テストトーンが各スピーカーより出力されます。
② ◁ ▷ ボタンを押して、各スピーカーの音量が同じになるように調節する。
③ 調節が終わったら、もう一度 **TEST** ボタンを押す。

- 市販の音圧計を使用してレベル設定をするときは、各スピーカーのレベルがリスニングポイントで 75dB になるように調節します。この際、音圧計の設定は、周波数特性を“C”、動特性を“SLOW”にしてください。
- GUI メニューの“スピーカー構成”の設定で、“無し”に設定されているスピーカーは表示されません。
- “チャンネルレベル”を調節すると、調節された値がすべてのサラウンドモードに対して設定されます。サラウンドモード別にチャンネルレベルを調節する場合は、73 ページ AVC-A1HD、71 ページ AVP-A1HDをご覧ください。

5 クロスオーバー周波数

サブウーハーから出力する各スピーカーの低音域信号を何 Hz 以下にするかを選びます。

【選択できる項目】

FIXED-THX- :
THX 規格の 80Hz のクロスオーバー周波数に設定します。

40Hz / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz** :
サブウーハーから出力される各スピーカーの低音域信号を、設定された周波数以下で出力します。
お使いになるスピーカーの低域再生能力に合わせて設定してください。

スピーカー別 :
各スピーカーごとに、クロスオーバー周波数を設定します。

- THX認証のスピーカーをお使いのときは、“スピーカーの構成”をすべて“小”に設定してください。また、クロスオーバー周波数を“FIXED-THX-”に設定することを推奨しますが、スピーカーによっては異なる周波数に設定することで、クロスオーバー周波数付近での周波数特性を改善できる場合もあります。
- “クロスオーバー周波数”は、GUI メニューの“スピーカー構成”で、“サブウーハー”が“有り”または“小”に設定されているスピーカーがある場合に設定できます（☞24 ページ）。
- “スピーカー別”の設定では、GUI メニューの“スピーカーの設定”-“サブウーハーの設定”-“モード”が“LFE-THX-”に設定されている場合は、“スピーカー構成”で“小”に設定されているスピーカーの設定ができます。また、“LFE＋メイン”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
- “小”に設定されたスピーカーの場合、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力されます。カットされた低音域はサブウーハーまたはフロントスピーカーから出力されます。

6 THX の設定

THX サラウンドモードを最適に再生するためのスピーカー設定をします。

THX Ultra2 サブウーハー

THX Ultra2 規格対応のサブウーハーまたは低域を十分に再生できるサブウーハーを使用する場合に設定します。

【選択できる項目】 **対応** / **非対応**

GUI メニューの“スピーカー構成”-“サブウーハー”の設定が“有り”のときに設定できます（☞24 ページ）。

BGC(Boundary Gain Compensation)

低音域の量感が大きい場合に、低音域を補正します。

【選択できる項目】 **オン** / **オフ**

- 低音域の量感が過多になるときには、“BGC”を“オン”に設定してください。55Hz 以下の低音域をカットする回路が動作しますので、再生音の低音域の量感でお好みに応じて選んでください。
- “THX Ultra2 サブウーハー”の設定が“対応”のときに設定できます。

SB スピーカーの間隔

サラウンドバックスピーカー左右間の距離を設定します。

【選択できる項目】 **0.3m 以下** / **0.3-1.2m** / **1.2m 以上**

- GUI メニューの“スピーカー構成”-“サラウンドバック”（☞24 ページ）の設定が“2 台”のときに設定できます。“1 台”に設定した場合は表示されません。
- THX サラウンド EX、THX ウルトラ 2 シネマ、THX ミュージックモードおよび THX ゲームズモードを最適に再生するために必要な設定です。

アップグレードをおこなうと、“音声の設定”の内容が変更されます。
“音声の設定”の設定をおこなう場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧になって操作してください。

音声の設定

GUI

音声の再生に関する設定をします。

● メニュー階層 ●

- マニュアル設定
  - 音声の設定
    - 1 外部入力の設定
    - 2 2ch ダイレクト/ステレオ
    - 3 オートサラウンドモード
    - 4 マニュアルEQ
    - 5 バイリンガルモード

1 外部入力の設定 AVC-A1HD

EXT. IN モードで再生するときのスピーカーの各種設定をします。

サブウーハーレベル

サブウーハーの再生レベルを設定します。
使用するプレーヤーに合わせて選びます。

【選択できる項目】 0dB +5dB +10dB +15dB

“+15dB”に設定することをおすすめします。

1 外部入力の設定 AVP-A1HD

外部入力端子（EXT. IN）から入力されたアナログ信号の再生方法を設定します。

モード

再生モードを選びます。

【選択できる項目】 DSP アナログ

サラウンドバック入力

接続するプレーヤーに合わせて、サラウンドバックチャンネル入力を選びます。

【選択できる項目】 使用しない SBL/SBR SB(SBL)

“モード”の設定が“DSP”のときに設定できます。

サブウーハーレベル

サブウーハーの再生レベルを設定します。
使用するプレーヤーに合わせて選びます。

【選択できる項目】 0dB +5dB +10dB +15dB

“+15dB”に設定することをおすすめします。

入力アッテネーター

入力レベルが大きすぎて再生音が歪んでいる場合に設定します。

【選択できる項目】 オフ －6dB

“モード”の設定が“DSP”のときに設定できます。

2 2ch ダイレクト / ステレオ

2チャンネルモードで再生するときのスピーカーの各種設定をします。

設定

設定を変更する場合は“変更”を選びます。

【選択できる項目】 基本* 変更

＊：“スピーカーの設定”と同じ設定で再生します。

フロント

フロントスピーカーの大きさを選びます。

【選択できる項目】 大 小

サブウーハー

サブウーハーの有り・無しを選びます。

【選択できる項目】 有り 無し

サブウーハーモード

サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

【選択できる項目】 LFE-THX- LFE+メイン

クロスオーバー

クロスオーバー周波数を設定します。

【選択できる項目】 THX | 40Hz | 60Hz | 80Hz | 90Hz | 100Hz | 110Hz | 120Hz | 150Hz | 200Hz | 250Hz

距離フロント左

リスニングポイントからフロント左スピーカーまでの距離を設定します。

【可変できる範囲】 0.00m ~ 18.00m

距離フロント右

リスニングポイントからフロント右スピーカーまでの距離を設定します。

【可変できる範囲】 0.00m ~ 18.00m

3 オートサラウンドモード

入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。

【選択できる項目】 オン | オフ

- オートサラウンドモードは、次の 4 種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶させることができます。
  ① アナログや PCM の 2 チャンネル信号
  ② ドルビーデジタルや DTS などの 2 チャンネル信号
  ③ ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネル信号
  ④ ドルビーデジタルや DTS 以外の PCM や DSD のマルチチャンネル信号
- PURE DIRECT モードで再生中は、入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

4 マニュアル EQ

グラフィックイコライザーを使って各スピーカーの音色を調節します。

調節チャンネル

スピーカーの調節方法を選びます。

【選択できる項目】 各スピーカー | 左右 | すべて

スピーカーや周波数帯を選び、レベルを調節します。

【選択できる項目】 63 | 125 | 250 | 500 | 1k | 2k | 4k | 8k | 16k

【可変できる範囲】 -20dB ~ 0dB ~ +6dB

カーブコピー

"MultEQ XT® 32" の "Audyssey Flat" の補正カーブをコピーします。

【選択できる項目】 コピーする | コピーしない

"カーブコピー" は、オートセットアップをおこなった後に表示されます。

初期化

設定を初期値に戻します。

5 バイリンガルモード

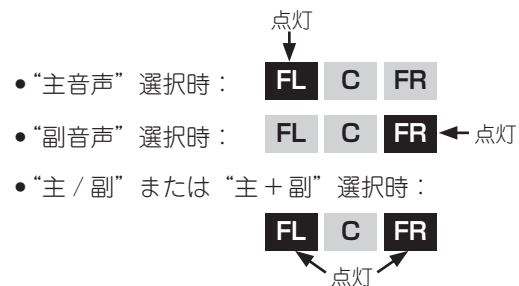
AAC ソースやドルビーデジタルソースの二重音声の出力内容を設定します。

【選択できる項目】 主音声 | 副音声 | 主 / 副 | 主＋副

- バイリンガルモードは、AAC ソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効です。
- 二重音声の情報があるソースを録音する場合は、プレーヤーまたはチューナー側で録音したい音声に切り替えてください。

AAC ソースまたはドルビーデジタルソースで二重音声の情報を検出した場合

- "主音声" 選択時：

- "副音声" 選択時： FL C FR ← 点灯
- "主 / 副" または "主＋副" 選択時：

※ DTS ソースで二重音声を検出した場合は、バイリンガルモードの設定に関わらず、"FL" と "FR" が点灯します。
※ "MPEG2 AAC" モードの場合、音声はセンタースピーカーより出力されます。フロントスピーカーで再生したい場合は、"STEREO" モードなどを選んでください。

アップグレードをおこなうと、“その他の設定”の内容が変更されます。
“その他の設定”の設定をおこなう場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧になって操作してください。

1 アンプの割り当て AVC-A1HD

パワーアンプの割り当てを変更します。

アサインモード

お使いになる環境にあわせて、サラウンド用アンプとサラウンドバック用アンプの使用先を自由に設定することができます。
これにより、サラウンド再生をおこなう部屋（メインゾーン）以外の部屋にもスピーカー出力をしたり（マルチゾーン再生）メインゾーンのフロントスピーカーの高音質再生（バイワイヤリング / バイアンプ）をお楽しみいただけます。

【選択できる項目】

通常 / ゾーン 2 / ゾーン 3 / ゾーン（モノラル）/ バイワイヤリング / バイワイヤリング＆ゾーン2 / バイワイヤリング＆ゾーン 3 / バイワイヤリング＆モノラル / バイアンプ / ゾーン2/ ゾーン3 / ゾーン2/ 3（モノラル）/ 2ch バイワイリング / 2ch バイアンプ / フロントハイト / フロントワイド / フリーアサイン

詳しくは、「アンプアサイン機能によるマルチゾーンの設定」（☞47 ～ 62 ページ）をご覧ください。

拡張チャンネル

スピーカーシステムに追加するチャンネルを設定します。

【選択できる項目】

フロントハイト：スピーカーシステムにフロントハイトチャンネルを追加します。

フロントワイド：スピーカーシステムにフロントワイドチャンネルを追加します。

■ プリアウトの割り当て AVP-A1HD

プリアウトの割り当てを変更します。

アサインモード

“フリーアサイン”に設定すると、お使いになる環境にあわせて、各プリアウトを任意のチャンネルに自由に割り当てることができます。

【選択できる項目】 **通常** **フリーアサイン**

プリアウト端子 ＼ プリアウトの割り当て	FL	FR	C	SL	SR	SBL	SBR	FHL/FWL	FHR/FWR	SW1	SW2	SW3
通常	FL	FR	C	SL	SR	SBL	SBR	FHL	FHR	SW1	SW2	SW3
フリーアサイン	FL	FL	FL	FL	FL	FL	FL	FL	FL	FL	FL	FL
	FR	FR	FR	FR	FR	FR	FR	FR	FR	FR	FR	FR
	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL
	SR	SR	SR	SR	SR	SR	SR	SR	SR	SR	SR	SR
	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL
	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR
	FHL	FHL	FHL	FHL	FHL	FHL	FHL	FHL	FHL	FHL	FHL	FHL
	FHR	FHR	FHR	FHR	FHR	FHR	FHR	FHR	FHR	FHR	FHR	FHR
	FWL	FWL	FWL	FWL	FWL	FWL	FWL	FWL	FWL	FWL	FWL	FWL
	FWR	FWR	FWR	FWR	FWR	FWR	FWR	FWR	FWR	FWR	FWR	FWR
	SW1	SW1	SW1	SW1	SW1	SW1	SW1	SW1	SW1	SW1	SW1	SW1
	SW2	SW2	SW2	SW2	SW2	SW2	SW2	SW2	SW2	SW2	SW2	SW2
	SW3	SW3	SW3	SW3	SW3	SW3	SW3	SW3	SW3	SW3	SW3	SW3

- GUI メニューの“スピーカーの設定”–“スピーカー構成”で“無し”に設定したチャンネルは設定できますが、出力されません。
- ゾーン 2 およびゾーン 3 のプリアウト端子には割り当てることはできません。

拡張チャンネル

スピーカーシステムに追加するチャンネルを設定します。

【選択できる項目】

フロントハイト：スピーカーシステムにフロントハイトチャンネルを追加します。

フロントワイド：スピーカーシステムにフロントワイドチャンネルを追加します。

2 XLR 出力の極性 AVP-A1HD

XLR プリアウト端子の極性を切り替える場合に設定します。

【設定できるチャンネル】

フロント左 フロント右 センター サラウンド左 サラウンド右 サラウンドバック左 サラウンドバック右 フロントハイト左 フロントハイト右 フロントワイド左 フロントワイド右 サブウーハー 1 サブウーハー 2 サブウーハー 3

【選択できる項目】 XLR

① GROUND
② HOT
③ COLD

XLR(INV)

① GROUND
② COLD
③ HOT

3 POA の設定 AVP-A1HD

本機と POA-A1HD を接続する場合に設定します。

POA LINK

本機と POA-A1HD を CONTROL LINK で接続する場合に設定します。

【選択できる項目】 オフ オン（シングル） オン（デュアル）

POA 1

MODE スイッチが “1” に設定してある POA-A1HD を設定します。

POA 2

MODE スイッチが “2” に設定してある POA-A1HD を設定します。

❑ 入力選択

設定するチャンネルを選びます。

【選択できる項目】 L1 R1 L2 R2 L3 R3 L4 R4 L5 R5

各チャンネルで使用する入力端子を選びます。

【選択できる項目】 RCA XLR OFF

❑ パワーアンプ

設定するチャンネルを選びます。

【選択できる項目】 L1/L2 L3/L4 L5/R5 R1/R2 R3/R4

各チャンネルのパワーアンプの使用方法を設定します。

【選択できる項目】 NORMAL BI-AMP BRIDGE (BTL)

LINK 確認

CONTROL LINK の確認をします。

2 音量の設定 AVC-A1HD
4 音量の設定 AVP-A1HD

音量の設定をします。

音量の上限

主音量の上限を設定します。

【選択できる項目】 オフ -20dB -10dB 0dB

電源オン時の音量

電源を入れたときの音量を設定します。

【選択できる項目】 前回の音量 - - - -80dB ~ 18dB

ミューティングレベル

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

【選択できる項目】 消音 -40dB -20dB

3 使用ソースの選択 AVC-A1HD
5 使用ソースの選択 AVP-A1HD

使用しない入力ソースを消去し、表示しないように設定します。

【選択できる項目】 使用する 使用しない

ご注意

- 現在選択中の入力ソースは、削除できません。
- “使用しない” に設定された入力ソースは、GUI メニューの “ソース選択” でも、本体の **SOURCE SELECT** つまみやメインリモコンの **SOURCE SELECT** ボタンでも選べません。

4 GUI AVC-A1HD
6 GUI AVP-A1HD

GUI の表示に関する設定をします。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーの表示を設定します。
スクリーンセーバー機能によりモニター画面の焼き付きを防止します。
“オン”に設定すると、約 3 分間何も操作しないときに、スクリーンセーバーが起動します。

【選択できる項目】 オン　オフ

“スクリーンセーバー”を“オン”に設定している場合は、3 分間以上操作しないと、スクリーンセーバーが起動します。
△▽◁▷、**ENTER** または **MENU** ボタンを押すと、スクリーンセーバーが解除され、対応する操作をおこないます。

壁紙

GUI の背景を変更します。

【選択できる項目】 ピクチャー　黒色　灰色　青色

フォーマット

使用するモニターに合わせて出力する映像信号方式を選びます。

【選択できる項目】 NTSC　PAL

ご注意

接続したモニターの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく映りません。このような場合は、以下の操作でビデオフォーマットを切り替えてください。

本体でも設定できます

※ この設定をおこなうとき、GUI メニューは表示されません。
① **AUDIO DELAY** と **RETURN** ボタンを 3 秒以上長押しする。
　ディスプレイに“Video Format”が表示されます。
② ◁ ▷ ボタンを押して、設定する。
③ **ENTER**、**MENU** または **RETURN** ボタンを押して、設定を終了する。

```
*Video Format
 < NTSC >
```

操作内容の表示

操作内容を表示します。

【選択できる項目】 オン　オフ

主音量表示

主音量を調節するときに主音量レベルを表示します。

【選択できる項目】 下　上　オフ

主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

NET/USB, iPod

操作時にオンスクリーン表示する時間を設定します。

【選択できる項目】 常に表示　30s　10s　オフ

5 クイックセレクトネーム AVC-A1HD
7 クイックセレクトネーム AVP-A1HD

クイックセレクトの名前を変更します。
16 文字まで入力することができます。

【入力できる文字】

A ~ Z　a ~ z　0 ~ 9
! # % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = “ > ? @ [\ ]（空白）

6 トリガーアウト 1 AVC-A1HD
8 トリガーアウト 1 AVP-A1HD

入力ソースやサラウンドモードなどに対して、トリガーアウト 1 を出力する条件を選びます。
トリガーアウトについては、27 ページをご覧ください。

7 トリガーアウト 2 AVC-A1HD
9 トリガーアウト 2 AVP-A1HD

"トリガーアウト 1"と同じように、トリガーアウト 2 を出力させる条件を設定します。

8 トリガーアウト 3 AVC-A1HD
10 トリガーアウト 3 AVP-A1HD

"トリガーアウト 1"と同じように、トリガーアウト 3 を出力させる条件を設定します。

9 トリガーアウト 4 AVC-A1HD
11 トリガーアウト 4 AVP-A1HD

"トリガーアウト 1"と同じように、トリガーアウト 4 を出力させる条件を設定します。

【選択できる項目】 オン ---

ゾーンに対する設定

"オン"に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガー出力がオン / オフします。

入力ソースに対する設定

"オン"に設定された入力ソースが選ばれたときに、トリガー出力がオンします。

「ゾーンに対する設定」で"オン"に設定されたゾーンの、入力ソースごとに連動します。

サラウンドモードに対する設定

"オン"に設定されたサラウンドモードが選ばれたときに、トリガー出力がオンします。

「ゾーンに対する設定」で"メインゾーン"の設定が"オン"、「入力ソースに対する設定」で"オン"に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。

モニターに対する設定

"オン"に設定された HDMI モニターが選ばれたときにトリガー出力がオンします。

「ゾーンに対する設定」で"メインゾーン"の設定が"オン"、「入力ソースに対する設定」で"オン"に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。

10 トランスデューサの設定 AVC-A1HD
12 トランスデューサの設定 AVP-A1HD

トランスデューサを使用する場合に設定します。

"トランスデューサの設定"は、GUI メニューの"スピーカーの設定"–"サブウーハーの設定"の設定が"1SP"または"2SP L/R"、"2SP MIX"のときに設定できます。トランスデューサの信号は、SW3 端子から出力します。

レベル

トランスデューサの出力レベルを調節します。

【可変できる範囲】

-12dB ~ 0dB ~ +12dB :

トランスデューサのレベルを設定します。

オフ :

トランスデューサの出力をオフにします。

"レベル"を調節すると、調節された値がすべてのサラウンドモードに対して設定されます。サラウンドモード別にレベルを調節する場合は、「チャンネルレベルの調節」(73 ページ AVC-A1HD、71 ページ AVP-A1HD)でおこなってください。

LPF

トランスデューサに出力する低音域信号の周波数の上限を設定します。

【選択できる項目】

40Hz 60Hz 80Hz 90Hz 100Hz 110Hz 120Hz 150Hz 200Hz 250Hz

11 デジタル出力 AVC-A1HD
13 デジタル出力 AVP-A1HD

OPT4 OUT の使用方法を設定します。

【選択できる項目】 ゾーン 4 | Rec Select

ご注意

“Rec Select” に設定すると、ゾーン 4 の操作はできません。

12 リモコン ID AVC-A1HD
14 リモコン ID AVP-A1HD

リモコンの ID を設定します。
使用するリモコンと本機の ID を合わせてください。

【選択できる項目】 1 | 2 | 3 | 4

- “リモコン ID” を変更する場合は、メインリモコンの “AMP”、“iPod”、“NET/DTU” モードも同時に変更してください（☞77 ページ AVC-A1HD 、75 ページ AVP-A1HD ）。
- “リモコン ID” を変更する場合は、サブリモコンのリモコン ID も同時に変更してください（☞82 ページ AVC-A1HD 、80 ページ AVP-A1HD ）。

13 232C ポート（1） AVC-A1HD
15 232C ポート（1） AVP-A1HD

外部コントローラーまたは双方向リモコンを接続したときに設定します。

【選択できる項目】

シリアルコントロール：外部コントローラーを使用するときに設定します。

双方向リモコン：双方向リモコンを使用するときに設定します。

ご注意

双方向リモコン（RC-7000CI や RC-7001RCI、別売り）をお使いになる場合は、“双方向リモコン” に設定してください。この場合、RC-232C 端子を外部コントローラー用としては使用できません。

14 ディスプレイの明るさ AVC-A1HD
16 ディスプレイの明るさ AVP-A1HD

本体のディスプレイ表示の明るさを調節します。

【選択できる項目】 通常 | 薄暗い | 暗い | 消灯

本体でも設定できます

DIMMER ボタンを押す。

通常 → 薄暗い → 暗い → 消灯 → 通常

15 設定の保護 AVC-A1HD
17 設定の保護 AVP-A1HD

設定した内容を変更できないように保護します。

【選択できる項目】 オン | オフ

- “設定の保護” を “オン” に設定すると、以下の設定が変更できなくなります。また、関連するボタンを操作すると、ディスプレイに “SETUP LOCKED!” が表示されます。
  - ・GUI メニュー操作
  - ・RESTORER
  - ・パラメーター
  - ・MultEQ® XT 32
  - ・チャンネルレベル
  - ・オーディオディレイ
- 設定を解除する場合は、**MENU** ボタンを押して再度 “設定の保護” 画面を表示させ、“オフ” に設定し直してください。

16 メンテナンスモード AVC-A1HD
18 メンテナンスモード AVP-A1HD

DENON サービスおよびインストーラによるメンテナンス機能の設定をします。

DENON サービスおよびインストーラが, 本機にインターネット経由で接続し、本機の状態の確認や設定をおこなうための機能です。

ご注意

DENON サービスまたはインストーラからの指示があった場合のみお使いください。

17 ファームウェアのアップデート AVC-A1HD
19 ファームウェアのアップデート AVP-A1HD

ファームウェアをアップデートします。

アップデートの確認

ファームアップウェアが最新かどうかの確認ができます。また、アップデートする場合のおよそのアップデート時間を確認できます。

スタート

アップデートの処理を実行します。
アップデートを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、GUI画面はシャットダウンします。
アップデート中は、ディスプレイに経過時間を表示します。
アップデートが完了すると、電源表示が緑色に点灯し、通常の状態に戻ります。

※ ディスプレイが以下のような表示になった場合は、設定やネットワーク環境の確認をおこなった上で、再度アップデートしてください。

ディスプレイ	説　明
Updating failed	アップデートに失敗しました。
Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。
Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。
Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。

18 新機能の追加 AVC-A1HD
20 新機能の追加 AVP-A1HD

- 本機にダウンロード可能な有償の新機能を表示し、アップグレードします。
- 今回のアップグレード時にソフトウェアのアップグレードもおこなっているため、“新機能の追加”の操作は必要ありません。さらにファームウェアのアップグレードがあった場合にこの操作をおこなってください。

新機能を購入し、ユーザー情報が登録されると、このメニューに“登録完了”と表示され、アップグレードすることができます。アップグレード完了すると、新機能を利用することができるようになります。

新機能の追加の画面で“--------”が表示されている場合は、アップグレードできません。
アップグレードを利用する場合は、DENON websiteでアップグレードパッケージを購入してください。
ご購入の際には、この画面に表示されているIDナンバーが必要になります。
メインリモコンの ▷ と **STATUS** ボタンを3秒以上長押しすると、ID番号をディスプレイに表示させることができます。

アップグレード

アップグレードの処理を実行します。
アップグレードを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、GUI 画面はシャットダウンします。
アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。
アップグレードが完了すると、電源表示が緑色に点灯し、通常の状態に戻ります。

※アップグレードができなかった場合には、“ファームウェアのアップデート”と同様のメッセージがディスプレイに表示されます。

アップグレードステータス

アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。

“ファームウェアのアップデート”および“新機能の追加”をおこなったときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットブロードバンドに接続できる環境と設定が必要です（☞📖39〜42ページ AVC-A1HD 、📖40〜42ページ AVP-A1HD）。
- アップデート/アップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- 以下の場合を除き、通常はこの機能を使用する必要はありません。
  - ・ファームウェアのアップデート：
    ファームウェアを最新の状態にするためにアップデートする場合（無償）
  - ・新機能の追加：
    将来本機に対する機能追加のためにアップグレードする場合（有償）
  - ・“ファームウェアのアップデート”および“新機能の追加”に関する情報は、その計画が明らかになるたびに、当社ホームページなどで告知する予定です。
- アップデート/アップグレードが完了するまでに、ブロードバンド接続でも1時間程度の時間がかかります。
  一旦アップデート/アップグレードを開始すると、本機は完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータが初期化される場合があります。

サラウンドモード

ホーム THX シネマモード再生

映画のサラウンドラックを忠実に再現する THX サラウンドモードです。

2 チャンネルのソースをサラウンド再生する場合

【選択できるモード】
PLIIx CINEMA　PLII CINEMA　Pro Logic　PLIIz HEIGHT

マルチチャンネルのソースを再生する場合（Dolby Digital, DTS, AAC など）

【選択できるモード】 HOME THX CINEMA

入力信号のフォーマットに応じてデコードし、THX サラウンド再生するモードです。
ホーム THX シネマモードを選んだときの表示は、入力信号やサラウンドバック出力の再生モードによって変わります。

入力信号		ディスプレイ表示
Dolby Digital ソース	DOLBY DIGITAL（2ch 以外）/ DOLBY DIGITAL EX / DOLBY DIGITAL Plus / DOLBY TrueHD	THX SURROUND EX
		THX Ultra2 Cinema
		THX Music Mode
		THX Games Mode
		THX Cinema
		PLIIx C+THX
		PLIIz+THX
DTS Surround ソース	DTS（5.1ch）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24 / DTS-HD High Resolution Audio / DTS-HD Master Audio	ES MTRX6.1+THX
		ES DSCRT6.1+THX（*）
		THX Ultra2 Cinema
		THX Music Mode
		THX Games Mode
		THX Cinema
		PLIIx C+THX
		PLIIz+THX
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC (5.1ch) MPEG-2 AAC (1 + 1ch)	THX SURROUND EX
		THX Ultra2 Cinema
		THX Music Mode
		THX Games Mode
		THX Cinema
		PLIIx C+THX
		PLIIz+THX
DVD-Audio、SACD	PCM（multi ch）/ DSD（multi ch）	THX SURROUND EX
		THX Ultra2 Cinema
		THX Music Mode
		THX Games Mode
		THX Cinema
		PLIIx C+THX
		PLIIz+THX

* 入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示します。

詳しくは、67 ページをご覧ください。

本体やメインリモコンでも操作できます

本体の **HOME THX CINEMA** ボタンまたはメインリモコンの **THX** ボタンを押す。

スタンダード再生

プログラムソースに合わせて、サラウンド再生を楽しむスタンダードなモードです。

サラウンドモードを選ぶ場合は、本体の **STANDARD** ボタンまたはメインリモコンの **STD** ボタンを押してください。ボタンを押すたびに、モードが切り替わります。
このとき、"Audyssey DSX™" の設定もおこなえます。詳しくは、43 ページをご覧ください。

2 チャンネルのソースをサラウンド再生する場合

❑ サラウンドバックスピーカーを使用している場合

【選択できるモード】

DOLBY PLⅡx：Dolby PLⅡx デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。サラウンドバックチャンネルによって、Dolby Pro Logic Ⅱに比べ、より包囲感が向上します。

DTS NEO:X：DTS NEO:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを含んだ最大 9.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。

❑ フロントハイトスピーカーを使用している場合

【選択できるモード】

DOLBY PLⅡz：Dolby PLⅡz デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントハイトチャンネルを加えた最大 9.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
フロントハイトチャンネルの追加によって、垂直方向の表現が豊かになり、立体感が向上します。

DTS NEO:X：DTS NEO:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントハイトチャンネルを含んだ最大 9.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。

❑ フロントワイドスピーカーを使用している場合

【選択できるモード】

DTS NEO:X：DTS NEO:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントワイドチャンネルを含んだ最大 9.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。

❑ サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーを使用していない場合

【選択できるモード】

DOLBY PLⅡ：Dolby PLⅡ デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを自然で臨場感のある 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。

DTS NEO:X：DTS NEO:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを含んだ 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。

DOLBY PLⅡx または DOLBY PLⅡ

- **Cinema**：映画ソースに適したモードです。
- **Music**：音楽ソースに適したモードです。
- **Game**：ゲームに適したモードです。
- **Pro Logic**：Dolby Pro Logic デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを 4.1 チャンネル（フロント左 / センター / フロント右 / サラウンドモノ）のサラウンドサウンドで再生するモードです。PLⅡ デコーダーで再生する場合に選べます。このモードを選ぶと、表示は "DOLBY PL" になります。

本体でも操作できます

"Cinema"、"Music" および "Game" モードは、本体の **CINEMA** ボタン、**MUSIC** ボタン、**GAME** ボタンでダイレクトに選ぶことができます。

DOLBY PLⅡz

- **Height**：ドルビー PLⅡz フロントハイトの再生モードです。

DTS NEO:X

- **Cinema**：映画ソースに適したモードです。
- **Music**：音楽ソースに適したモードです。
- **Game**：ゲームに適したモードです。

本体でも操作できます

"Cinema"、"Music" および "Game" モードは、本体の **CINEMA** ボタン、**MUSIC** ボタン、**GAME** ボタンでダイレクトに選ぶことができます。

"Cinema"、"Music"、"Game"、"Pro Logic" モードは、GUI メニューの "パラメーター" - "音声" - "サラウンドパラメーター" - "モード" で選んでください（☞39 ページ）。

ご注意

- DTS NEO:X モードは、入力信号のサンプリング周波数が 32kHz、64kHz および 128kHz の場合は選べません。
- 入力信号が DSD のときには DTS NEO:X を選択できません。

マルチチャンネルのソースを再生する場合（Dolby Digital, DTS, AAC など）

【選択できるモード】 STANDARD

入力信号のフォーマットに応じてデコードし、サラウンド再生するモードです。
STANDARD モードを選んだときの表示は、入力信号やサラウンドバック出力の再生モードによって変わります。

入力信号		ディスプレイ表示
Dolby Digital ソース	DOLBY DIGITAL（2ch 以外）/ DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL
		DOLBY DIGITAL EX
		DOLBY DIGITAL+PLⅡx CINEMA
		DOLBY DIGITAL+PLⅡx MUSIC
		DOLBY DIGITAL+NEO:X CINEMA
		DOLBY DIGITAL+NEO:X MUSIC
		DOLBY DIGITAL+NEO:X GAME
		DOLBY DIGITAL+PLⅡz
	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL+
	DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD
DTS Surround ソース	DTS（5.1ch）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND
		DTS+PLⅡx CINEMA
		DTS+PLⅡx MUSIC
		DTS+PLⅡz
		DTS+NEO:X CINEMA
		DTS+NEO:X MUSIC
		DTS+NEO:X GAME
		DTS ES MTRX6.1（*1）
		DTS ES DSCRT6.1（*2）
		DTS 96/24（*3）
	DTS-HD High Resolution Audio	DTS-HD HI RES
	DTS-HD Master Audio	DTS-HD MSTR

入力信号		ディスプレイ表示
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC（5.1ch）	MPEG2 AAC
		AAC+Dolby EX
		AAC+PLⅡx CINEMA
		AAC+PLⅡx MUSIC
		AAC+PLⅡz
		AAC+NEO:X CINEMA
		AAC+NEO:X MUSIC
		AAC+NEO:X GAME
	MPEG-2 AAC（1+1ch）	MPEG2 AAC
DVD-Audio、SACD	PCM（multi ch）/ DSD（multi ch）（*4）	MULTI CH IN
		MULTI IN+Dolby EX
		MULTI IN+PLⅡx CINEMA
		MULTI IN+PLⅡx MUSIC
		MULTI IN+PLⅡz
		MULTI CH IN 7.1
		MULTI IN+NEO:X CINEMA
		MULTI IN+NEO:X MUSIC
		MULTI IN+NEO:X GAME

*1： 入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”で、スピーカー構成が 6.1 チャンネルのときに表示します。
*2： 入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示します。
*3： 入力信号が“DTS 96/24”のときに表示します。
*4： 入力信号が DSD のときには DTS NEO:X を選択できません。

詳しくは、67 ～ 69 ページをご覧ください。

ご注意

- DTS NEO:X モードは、入力信号のサンプリング周波数が 32kHz、64kHz および 128kHz の場合は選べません。
- **STANDARD** ボタンを押して、Audyssey DSX™ モードも選べます。

MPEG-2 AAC について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっている場合があります。
テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❑ 入力信号チャンネル表示について

プログラムソースにより、入力信号チャンネル表示が点灯します。

● 2 チャンネルソース

LFE
FL C FR
SL S
SBL SB SBR

本体の **STANDARD** ボタンまたはメインリモコンの **STD** ボタンを押すと、“DOLBY PLⅡx”モード、“DOLBY PLⅡz”モードおよび“DTS NEO:X”モードを切り替えることができます。

● 5.1 チャンネルソース

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

本体の **STANDARD** ボタンまたはメインリモコンの **STD** ボタンを押すと、5.1 チャンネル再生ができます。
5.1 チャンネルで再生しているときは、“MPEG2 AAC”を表示します。

● モノラルソース

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

本体の **STANDARD** ボタンまたはメインリモコンの **STD** ボタンを押すと、“MPEG2 AAC”が表示されます。
音声は、センタースピーカーより出力されます。フロントスピーカーで再生したい場合は、サラウンドモード（“STEREO”など）を選んでください。

● 二重音声ソース

FL C FR
FL C FR
FL C FR

二重音声の情報がある AAC ソースを再生する場合は、主音声や副音声などの出力内容を選択できます。
詳しくは、“バイリンガルモード”（☞28 ページ）をご覧ください。

パラメーター

メインリモコンの **PARA** ボタンを押すと、ダイレクトにパラメーターを呼び出すことができます。

アップグレードをおこなうと、"音声"の内容が変更されます。
"音声"の設定をおこなう場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧になって操作してください。

1 サラウンドパラメーター

音場効果を調節します。
調節できるパラメーターは、各サラウンドモードごとに異なります（☞65、66 ページ）。

モード

再生するソースに合わせてモードを選びます。

❑ PLIIx または PLII モード

【選択できる項目】 Cinema / Music / Game / Pro Logic*

＊ : PLII モードのみ

❑ DTS NEO:X モード

【選択できる項目】 Cinema / Music / Game

"Music" モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。

❑ THX モード（2 チャンネルソースの場合）

【選択できる項目】

サラウンドバックオン / サラウンドバックオフ / THX Games Mode

❑ THX モード（マルチチャンネルソースの場合）

【選択できる項目】

THX Surr. EX / ES DSCRT / ES MTRX / PLIIx Cinema+THX / THX Ultra2 Cinema / THX Music Mode / THX Games Mode / THX Cinema / サラウンドバックオン

デコーダー

アナログ、PCM などの 2 チャンネルソースを再生中に選べます。下記のデコーダーでマルチチャンネル化してからドルビーヘッドホンで再生します。

❑ THX モード（2 チャンネルソースの場合）

【選択できる項目】 PLIIx CINEMA / PLII CINEMA / Pro Logic / PLIIz

❑ DOLBY HEADPHONE モード

【選択できる項目】

PLII CINEMA / PLII MUSIC / オフ

シネマ EQ

映画のセリフの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。

【選択できる項目】 オン / オフ

DRC

ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を適度に圧縮します。

【選択できる項目】 オート / 弱 / 標準 / 強 / オフ

ドルビー TrueHD ソースを再生する場合に設定できます。

ダイナミックレンジ圧縮

ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を適度に圧縮します。

【選択できる項目】 オフ / 弱 / 標準 / 強

DTS ソースを再生する場合は、対応するソフトのみ表示されます。

LFE

低域信号（LFE）レベルの調節をします。

【可変できる範囲】 -10dB ～ 0dB

各プログラムソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
・ドルビーデジタルソース："0dB"
・DTS の映画ソース："0dB"
・DTS の音楽ソース："–10dB"

センターゲイン

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

❑ DTS NEO:X モードで"Cinema"または"Game"を選択しているとき

【可変できる範囲】 0.0 ～ 1.0

❑ DTS NEO:X モードで"Music"を選択しているとき

【可変できる範囲】 0.0 ～ 0.3 ～ 1.0

DTS NEO:X を再生する場合に設定できます。

パノラマ

フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。

【選択できる項目】 オン オフ

ディメンション

音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。

【可変できる範囲】 0 ～ 3 ～ 6

センター幅

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 0 ～ 3 ～ 7

ディレイタイム

遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 0ms ～ 30ms ～ 300ms

エフェクト

マルチサラウンドスピーカーの効果を持つエフェクトのオン / オフを設定します。

【選択できる項目】 オン オフ

エフェクトレベル

エフェクトレベルを調節します。

【可変できる範囲】 1 ～ 10 ～ 15

サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

ルームサイズ

音場空間のイメージを選びます。

【選択できる項目】 小 やや小 標準 やや大 大

ご注意

"ルームサイズ"は、再生する部屋の大きさを表わすものではありません。

AFDM

ソースの識別信号を検出して自動的にサラウンドモードを設定します。
専用の識別信号が記録されたソフトのみに働きます。
再生するソフトがドルビーデジタル EX で記録されている場合は、6.1 チャンネルで再生し、記録されていない場合は、5.1 チャンネルで再生します。

【選択できる項目】 オン オフ

【例】ドルビーデジタルソフト（EX フラグあり）の再生

- "AFDM"を"オン"に設定すると、サラウンドモードは自動的に"DOLBY D + PLIIx C"モードになります。
- DOLBY DIGITAL EX モードで再生する場合は、"AFDM"を"オフ"、"サラウンドバック"を"MTRX ON"に設定してください。

ドルビーデジタル EX ソースには、EX フラグが含まれていないものがあります。"AFDM"を"オン"に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、"サラウンドバック"を"MTRX ON"または"PLIIx CINEMA"に設定してください。

サラウンドバック（マルチチャンネルソースの場合）

サラウンドバックチャンネルの再生方法を選びます。

【選択できる項目】

オン*1 MTRX ON PLIIx CINEMA*2 PLIIx MUSIC*3 オフ

*1：DTS-HD の 5.1 チャンネルソースを、DTS が推奨する 7.1 チャンネル出力に変換して再生します。
DTS-HD の 5.1 チャンネルソースを再生中に選べます。
*2：GUI メニューの"スピーカー構成"の設定で、"サラウンドバック"が"2 台"に設定されているときに選べます（☞24 ページ）。
*3：GUI メニューの"スピーカー構成"の設定で、"サラウンドバック"が"2 台"または"1 台"に設定されているときに設定できます。

サラウンドバックスピーカーを使用しているときに **STANDARD** ボタンを押すと、"サラウンドバック"の設定を変えることができます。

サラウンドバック（2 チャンネルソースの場合）

サラウンドバックチャンネルのオン / オフを設定します。

【選択できる項目】 オン オフ

Height ゲイン

フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。

【選択できる項目】 低 **中** 高

ご注意

“Height ゲイン” は、次の設定のときに表示します。

- GUI メニューの “スピーカー設定” - “スピーカー構成” - “フロントハイト” の設定（☞24 ページ）が “無し” 以外のとき
- サラウンドモードが “PLⅡz” または PLⅡz のデコーダーを使用しているとき

入力チャンネル AVP-A1HD

再生するソースに合わせて、外部入力（EXT. IN）端子で使用するチャンネルを選びます。

【選択できる項目】 **8CH** 2CH

GUI メニューの “マニュアル設定” - “音声の設定” - “外部入力の設定” - “モード” が “DSP” に設定されているときに選べます（☞27 ページ）。

サブウーハーアッテネーター

外部入力（EXT. IN）端子使用時のサブウーハーチャンネルのレベルを抑えます。

【選択できる項目】 オン **オフ**

スーパーオーディオ CD を再生したときに、サブウーハーチャンネルのレベルが大きいと感じる場合は、“オン” に設定してください。

サブウーハー

サブウーハーチャンネルのオン / オフを設定します。

【選択できる項目】 オン オフ

初期化

設定を初期化します。

2 トーンコントロール

トーンを調節します。

トーンデフィート

トーンの調節をおこなわない場合に設定します。

【選択できる項目】 オン オフ

ご注意

- DIRECT、PURE DIRECT および HOME THX CINEMA モード中は、トーンの調節ができません。
- “Dynamic EQ®” （☞42 ページ）の設定が “オン” のときは、“トーンコントロール” の調節はできません。

低音

すべてのチャンネルの低音を一括で調節します。

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

高音

すべてのチャンネルの高音を一括で調節します。

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

“低音” および “高音” は、“トーンデフィート” の設定が “オフ” のときに設定できます。

フロント

フロントチャンネルのトーンを調節します。

【選択できる項目】 低音 高音

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

センター

センターチャンネルのトーンを調節します。

【選択できる項目】 低音 高音

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

サラウンド

サラウンドチャンネルのトーンを調節します。

【選択できる項目】 低音 高音

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

サラウンドバック

サラウンドバックチャンネルのトーンを調節します。

【選択できる項目】 低音 高音

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

フロントハイト

フロントハイトチャンネルのトーンを調節します。

【選択できる項目】 低音 高音

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

フロントワイド

フロントワイドチャンネルのトーンを調節します。

【選択できる項目】 低音 高音

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

サブウーハー

サブウーハーチャンネルのトーンを調節します。

【選択できる項目】 低音

【可変できる範囲】 -6dB ～ +6dB

PURE DIRECT、DIRECT および HOME THX CINEMA 以外のサラウンドモードで設定できます。サラウンドモードごとに設定が可能です。

3 Audyssey 設定

Audyssey MultEQ® XT 32、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の設定をします。
これらの設定は、オートセットアップをおこなったあとに設定できます。
Audyssey 技術に関する詳細な情報については、64 ページをご覧ください。

MultEQ® XT 32

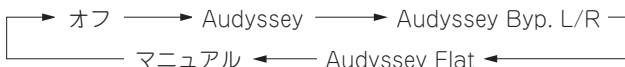
MultEQ® XT 32 は、オートセットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。
3 種類の補正カーブから選択します。“Audyssey”に設定することをおすすめします。
MultEQ® XT 32 の設定は、Dynamic EQ® や Dynamic Volume® を動作させるために必要です。

【選択できる項目】

Audyssey	：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。
Audyssey Byp. L/R	：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。
Audyssey Flat	：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。
マニュアル	：GUI メニューの“マニュアル EQ”（☞28 ページ）で調節された周波数特性を適用します。
オフ	：MultEQ® XT 32 を使用しません。

本体やメインリモコンでも操作できます

本体の **ROOM EQ** ボタンまたはメインリモコンの **EQ** ボタンを押す。

→ オフ → Audyssey → Audyssey Byp. L/R →
← マニュアル ← Audyssey Flat ←

- “Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”または“Audyssey Flat”を選んだ場合“AUDYSSEY MULTEQ XT”表示が点灯します。
- オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、“AUDYSSEY MULTEQ XT”表示が点灯します。

- オートセットアップをおこなった後に、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選ぶことができます。
- オートセットアップをおこなうと、“MultEQ® XT 32”の設定は自動的に“Audyssey”になります。
- オートセットアップで“無し”と判定されたスピーカーの設定を変更した場合、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選べません。再度オートセットアップをおこなうか、GUI メニューの“オートセットアップ”–“パラメーター確認”–“再設定”（☞23 ページ）で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください。
- ヘッドホンを使用しているとき、“MultEQ® XT 32”は“オフ”になります。

Dynamic EQ®

人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。
Dynamic EQ® は MultEQ® XT 32 と連動して動作します。

【選択できる項目】 **オン** **オフ**

本体でも操作できます

DYNAMIC EQ ボタンを押す。

- “Dynamic EQ®”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- オートセットアップをおこなうと、“Dynamic EQ®”の設定は自動的に“オン”になります。
- “MultEQ® XT 32”を“オフ”または“マニュアル”に設定すると“Dynamic EQ®”は自動的に“オフ”になります。
- オートセットアップ実行前やオートセットアップ実行後にスピーカーの本数を増やして **DYNAMIC EQ** ボタンを押した場合に“Run Audyssey”を表示します。このような場合には、オートセットアップをおこなうか、GUI メニューの“オートセットアップ”–“パラメーター確認”–“再設定”（☞23 ページ）で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください。

ご注意

- 次の場合、“Dynamic EQ®”は設定できません。
  - “オートセットアップ”が完了していない場合
  - オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーから使用するスピーカーを増やした場合
- “Dynamic EQ®”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”（☞41 ページ）の調節はできません。

リファレンスレベルオフセット

Audyssey Dynamic EQ® は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ® は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB/10dB/15dB）が可能です。下記が推奨の設定レベルになります。

【選択できる項目】

0dB	：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です（フィルムリファレンス）。
5dB	：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。
10dB	：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。
15dB	：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。

GUI メニューの“Dynamic EQ®”設定（☞42 ページ）が“オン”のときに設定できます。

Dynamic Volume®

テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をお好みの音量設定値に自動的に調節します。

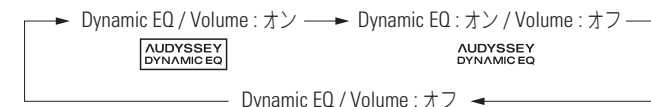
【選択できる項目】

オン	：Dynamic Volume® 機能を使用します。Dynamic Volume® の効果は、“設定”にて設定した値になります。
オフ	：Dynamic Volume 機能を使用しません。

本体でも操作できます

DYNAMIC EQ ボタンを押す。

Dynamic EQ / Volume : オン → Dynamic EQ : オン / Volume : オフ → Dynamic EQ / Volume : オフ →（Dynamic EQ / Volume : オンに戻る）

AUDYSSEY DYNAMIC EQ　AUDYSSEY DYNAMIC EQ

- “Dynamic Volume®”は、オートセットアップをおこなった後に設定できます。
- “MultEQ® XT 32”を“オフ”または“マニュアル”に設定すると“Dynamic Volume®”は自動的に“オフ”になります。
- オートセットアップ実行前やオートセットアップ実行後にスピーカーの本数を増やして **DYNAMIC EQ** ボタンを押した場合に“Run Audyssey”を表示します。このような場合には、オートセットアップをおこなうか、GUI メニューの“オートセットアップ”－“パラメーター確認”－“再設定”（☞23 ページ）で、オートセットアップ実行後の設定に戻してください。

ご注意

次の場合、“Dynamic Volume®”は設定できません。

- オートセットアップが完了していない場合
- オートセットアップをおこなったあと、スピーカーを増やした場合

設定

Dynamic Volume® の効果を設定します。

【選択できる項目】

Midnight	：音量レベル調整を最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。
Evening	：音量レベル調整を中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。
Day	：音量レベル調整を最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。

- GUI メニューの“Dynamic Volume®”設定（☞43 ページ）が“オン”のときに設定できます。
- “設定”を“Midnight”、“Evening”または“Day”に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY DYNAMIC EQ 表示が点灯します。
- “オートセットアップ”（☞21 ページ）で“Dynamic Volume®”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Evening”になります。
- “設定”は、オートセットアップをおこなったあとに設定できます。

ご注意

次の場合、“設定”は設定できません。

- オートセットアップが完了していない場合
- オートセットアップをおこなったあと、スピーカーを増やした場合
- “Dynamic Volume®”の設定が“オフ”の場合

4 A-DSX サウンドステージ

Audyssey DSX™ の設定とサウンドステージのパラメーターを調節します。

Audyssey DSX™

新たなチャンネルを追加し、包み込むようなサラウンドサウンドを提供します。

【選択できる項目】

オン－ハイト－	：フロントハイトチャンネルを生成する Audyssey DSX™ を設定します。
オン－ワイド－	：フロントワイドチャンネルを生成する Audyssey DSX™ を設定します。
オフ	：Audyssey DSX™ を設定しません。

本体やメインリモコンでも操作できます

ディスプレイに“A-DSX”が表示されるまで、本体の **STANDARD** ボタンまたはメインリモコンの **STD** ボタンを押す。

ステージウィドス

フロントワイドスピーカー使用時にサウンドステージの広がりを調節します。

【可変できる範囲】 -10 ～ 0 ～ +10

ステージハイト

フロントハイトスピーカー使用時サウンドステージの高さを調節します。

【可変できる範囲】 -10 ～ 0 ～ +10

- "Audyssey DSX™" は、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーをご使用のときに設定できます。
- "Audyssey DSX™" は、センタースピーカーを使用しているときに有効です。
- "Audyssey DSX™" はサラウンドモードが PLⅡz Height または DTS NEO:X 以外の STANDARD モードのときに有効です。
- 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルやフロントワイドチャンネルが含まれている場合は、"A-DSX サウンドステージ" は使用できません。この場合、入力信号のままそれぞれのチャンネルを再生します。

Audyssey Dynamic Surround Expansion（A-DSX）について
Audyssey DSX™ は、既存の 5.1ch システムにハイトチャンネルまたはワイドチャンネルを加えることによりサラウンド効果や印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現するサラウンド拡張技術です。人間の聴覚特性の研究ではサラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントをあげています。最も重要なポイントは、臨場感のあるサラウンド空間を構成するためにフロント（前方向）に横の広がり（ワイドチャンネル）を作ることです。次に重要なポイントは、サラウンド空間に奥行き感を作るために認知（聴くことが）できる音響信号でフロント（前方向）に高さの広がり（ハイトチャンネル）を作ることです。Audyssey DSX™ はこの 2 つの重要な要素からそれぞれ左右のワイドチャンネル、ハイトチャンネルを作り出します。さらに Audyssey DSX™ は単にハイトチャンネルやワイドチャンネルを追加するだけではなく、既存のフロント、サラウンドチャンネルを組み合わせる技術 "Surround Envelopment Processing" により効果を高めています。

5 RESTORER

圧縮音声を圧縮前の状態に復元し、低域および高域の量感を補正して豊かに再生します。

【選択できる項目】 オフ

モード 1 （RESTORER 64）

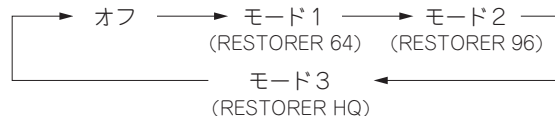
モード 2 （RESTORER 96）

モード 3 （RESTORER HQ）

"NET/USB" と "iPod" のお買い上げ時の設定は、"モード 3" です。その他は、すべて "オフ" に設定されています。

本体やメインリモコンでも操作できます

再生中に、本体の **RESTORER** ボタンまたはメインリモコンの **RSTR** ボタンを押す。

"OFF" 以外に設定すると、"RESTORER" 表示が点灯します。

RESTORER機能について
● MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。 ● 入力ソースが "NET/USB" のとき、またはアナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときに GUI メニューに表示され、設定することができます。

6 オーディオディレイ

映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。

音声を遅らせる時間を設定します。

【可変できる範囲】 0 ms ～ 200 ms

本体やメインリモコンでも操作できます

※ この設定をおこなうとき、GUI メニューは表示されません。

① 本体の **AUDIO DELAY** ボタンまたはメインリモコンの **A. DL** ボタンを押す。

② ◁▷ ボタンを押して、設定する。

- "EXT. IN"、"DIRECT" および "STEREO" モード（クロスオーバー周波数：“FIXED–THX–”、フロント：“大”、トーンデフィート：“オン”、MultEQ® XT 32：“オフ”）で再生しているときは、調節できません。
- オートリップシンク補正機能が働いているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。

情報

アップグレードをおこなうと、“現在の設定”および“クイックセレクト”の内容が変更されます。
“現在の設定”および“クイックセレクト”の設定をおこなう場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧になって操作してください。

現在の設定

1 メインゾーン

メインゾーンの設定状態を表示します。
表示される内容は、入力ソースによって異なります。

【確認できる項目】
選択ソース　ネーム　サラウンドモード　Rec Select
ビデオセレクト　i/p スケーラー　入力モード
ソースレベル　MultEQ® XT 32　Dynamic EQ®
Dynamic Volume®　RESTORER　など

2 ゾーン 2/3/4

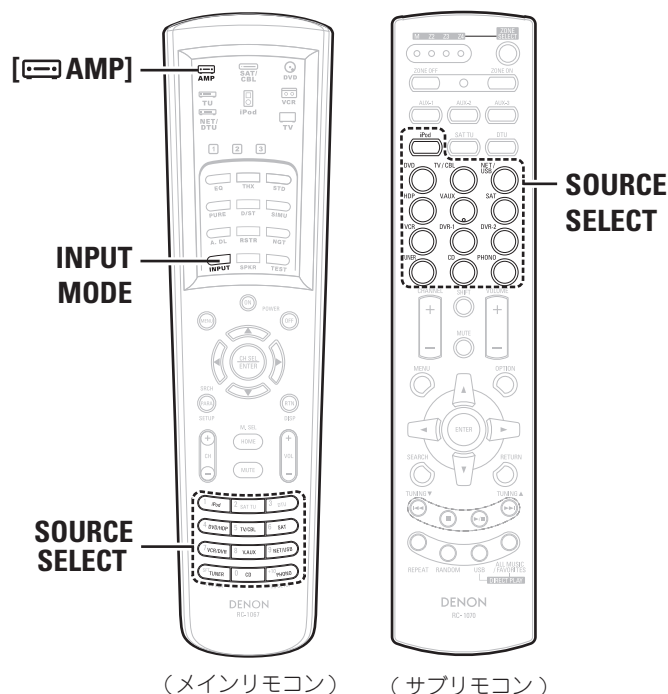
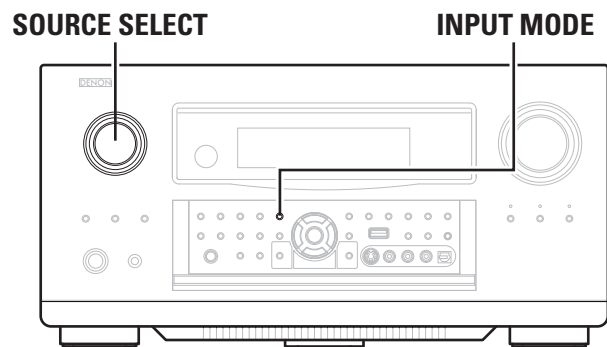
マルチゾーンの設定状態を表示します。

【確認できる項目】 電源　選択ソース　音量レベル

クイックセレクト

【確認できる項目】
選択ソース　入力モード　MultEQ® XT 32
Dynamic EQ®　Dynamic Volume®
オートサラウンドモード　音量レベル　ネーム

クイックセレクト１～３への記憶のしかたは、73 ページ AVC-A1HD 、71 ページ AVP-A1HD をご覧ください。

（メインリモコン）　（サブリモコン）

その他の操作や機能

便利な機能

アップグレードをおこなうと、DENON 独自の音声信号伝送技術である DENON LINK 4th での高品質再生が可能になります。

DENON LINK 4th によるブルーレイディスクのHD音声の再生

ブルーレイディスク再生時に、HD 音声のジッターフリー再生ができます。

1 本機と DENON LINK 4th 対応ブルーレイディスクプレーヤーを、DENON LINK ケーブルとHDMI ケーブルを使って接続する。

※ 接続のしかたは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

2 使用する入力ソースに“DENON LINK”を割り当てる。

GUI ：“ソース選択”-“(入力ソース)”-“端子の割り当て”-“デジタル端子”-“DENON　LINK”
（☞49ページ）

3 使用する入力ソースにプレーヤーと接続しているHDMI入力端子を割り当てる。

GUI ：“ソース選択”-“(入力ソース)”-“端子の割り当て”-“HDMI端子”-“1”～“6”
（☞48ページ AVC-A1HD 、49ページ AVP-A1HD ）

4 本機のHDMIコントロール機能を“オン”にする。

GUI ：“マニュアル設定”-“HDMI設定”-“HDMIコントロール”-“コントロール”-“オン”
（☞37ページ）

5 プレーヤーの DENON LINK 設定を“4th”にする。

※ 設定のしかたは、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

6 プレーヤーのHDMIコントロール機能を“オン”にする。

※ 設定のしかたは、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7 SOURCE SELECT で、操作2、3で、割り当てた入力ソースを選ぶ。

ディスプレイの“HDMI”表示が点灯します。

8 INPUT MODE でオーディオ入力モードの“オート”を選ぶ。

※ ブルーレイディスクを再生すると、自動的にDENON LINK 4thでの再生になります。

ご注意 オーディオ入力モードを“オート”以外に設定すると、ジッターフリー再生にはなりません。

9 サラウンドモードを選ぶ。

10 ブルーレイディスクを再生する。

入力信号の種類とサラウンドモードに応じた再生がはじまります。
ジッターフリー再生中は、プレーヤーのDENON　LINK CLOCK CONTROL表示が点灯します。

※ 操作のしかたは、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
※ プレーヤーによって、表示が異なります。詳しくはプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

入力モードを“オート”に設定して、ブルーレイディスク以外の再生をおこなうと、自動的にDENON LINK 3rdでの再生になります。

ご注意

- 入力モードを“HDMI”に設定すると、ジッターフリー再生はできません。HDMIでの再生になります。
- 入力モードを“デジタル”に設定すると、DENON　LINK　3rdでの再生になり、ブルーレイディスクの音声は再生されません。

アンプアサインの設定とマルチゾーンの接続と操作 AVC-A1HD

アップグレードをおこなうと、「アンプアサインの設定」および「マルチゾーンの接続方法」が初期化されます。
「アンプアサインの設定とマルチゾーンの接続と操作」をおこなう場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧になって操作してください。

本機は、次の再生に対応しています。

- **マルチゾーン再生（ゾーン 2/ ゾーン 3）**
- **バイアンプ再生（フロントスピーカー）**
- **バイワイヤリング再生（フロントスピーカー）**

ご注意

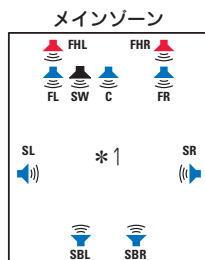
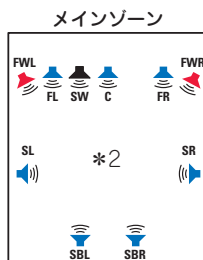
- バイアンプやバイワイヤリング再生には、各接続対応の端子を持つスピーカーをお使いください。
- バイアンプやバイワイヤリング接続のときは、スピーカー端子の短絡板または短絡用ワイヤーを外してください。

アンプアサイン機能によるマルチゾーンの設定

アンプアサイン機能により、本機に内蔵の各チャンネルのアンプを各ゾーンのスピーカー出力に割り当てることができます。
「設定 1 」〜「設定 16」の中からお好みの再生環境を選び、GUI メニューの“マニュアル設定” -“その他の設定”-“アンプの割り当て”で該当するアンプアサインモードを設定してください。
また、スピーカーの接続も「スピーカーの接続」の説明のとおりにおこなってください。

「設定 2」〜「設定 6」、「設定 8」〜「設定 10」、「設定 12」、「設定 13」は、スピーカーの接続を変えずに、アンプアサインモードを“9.1/7.1 チャンネルモード”と“マルチゾーンモード”に切り替えて再生できます。

設定１：
●9.1チャンネル再生

アンプアサインモード：通常（アップグレード時の設定）

メインゾーン

または

メインゾーン

＊1：フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択してください。

＊2：フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択してください。

【各スピーカーの呼称について】

FL	フロントスピーカー（左）	SL	サラウンドスピーカー（左）	FHL	フロントハイトスピーカー（左）
FR	フロントスピーカー（右）	SR	サラウンドスピーカー（右）	FHR	フロントハイトスピーカー（右）
C	センタースピーカー	SBL	サラウンドバックスピーカー（左）	FWL	フロントワイドスピーカー（左）
SW	サブウーハー	SBR	サラウンドバックスピーカー（右）	FWR	フロントワイドスピーカー（右）

スピーカーの接続

❏ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL				

❏ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

スピーカー / アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
通常	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	○	○	○	○	○	○	○			○	○				

設定2： 次の再生を切り替えておこなうことができます。
- **●9.1チャンネル再生**
- **●マルチゾーン再生**
  - ・7.1チャンネル再生 ＋ ゾーン2のステレオ再生

アンプアサインモード：**ゾーン2**

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択してください。
＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択してください。

スピーカーの接続

❏ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL			Z2R	Z2L

❏ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

アンプアサインモード ＼ スピーカー	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
ゾーン2	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
ゾーン2 オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	○	○	○	○	○	○	○			○	○				
ゾーン2 オン	○	○	○	○	○			○	○			○	○		
	○	○	○	○	○					○	○	○	○		

ご使用になる前に
接続のしかた
セットアップ
その他の操作や機能
アンプアサインとマルチゾーン
その他の情報
故障かな？と思ったら
主な仕様

設定3：次の再生を切り替えておこなうことができます。
●9.1チャンネル再生
●マルチゾーン再生
・7.1チャンネル再生 ＋ ゾーン3のステレオ再生

アンプアサインモード：**ゾーン3**

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの “マニュアル設定” – “その他の設定” – “アンプの割り当て” – “拡張チャンネル” 設定（☞29、30 ページ）で “フロントハイト” を選択してください。
＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの “マニュアル設定” – “その他の設定” – “アンプの割り当て” – “拡張チャンネル” 設定（☞29、30 ページ）で “フロントワイド” を選択してください。

スピーカーの接続

❑ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL			Z3R	Z3L

❑ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

スピーカー / アンプアサインモード		FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
		R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
ゾーン3	ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
		○	○	○	○	○	○	○			○	○				
	ゾーン3 オン	○	○	○	○	○			○	○					○	○
		○	○	○	○	○					○	○			○	○

設定4： 次の再生を切り替えておこなうことができます。

●**9.1チャンネル再生**

●**マルチゾーン再生**

・7.1チャンネル再生 ＋ ゾーン2 モノラル再生 ＋ ゾーン3 モノラル再生

アンプアサインモード： **ゾーン（モノラル）**

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択してください。

＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択してください。

スピーカーの接続

❑ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL			Z3 MONO	Z2 MONO

❑ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

スピーカー／アンプアサインモード		FRONT R	FRONT L	CENTER	SURR. R	SURR. L	SURR. BACK R	SURR. BACK L	FRONT HEIGHT R	FRONT HEIGHT L	FRONT WIDE R	FRONT WIDE L	ZONE2 モノラル	ZONE3 モノラル
ゾーン（モノラル）	ゾーン2 オフ/ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	ゾーン2 オン/ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○			○	○			○	
		○	○	○	○	○					○	○	○	
	ゾーン2 オフ/ゾーン3 オン	○	○	○	○	○			○	○				○
		○	○	○	○	○					○	○		○
	ゾーン2 オン/ゾーン3 オン	○	○	○	○	○			○	○			○	○
		○	○	○	○	○					○	○	○	○

設定5： 次の再生を切り替えておこなうことができます。
- **●9.1チャンネル再生**
- **●マルチゾーン再生**
  - •3.1チャンネル再生 ＋ ゾーン2 ステレオ再生 ＋ ゾーン3 ステレオ再生
  - •3.1チャンネル再生 ＋ ゾーン3 ステレオ再生
  - •7.1チャンネル再生 ＋ ゾーン2ステレオ再生

アンプアサインモード： **ゾーン2/ゾーン3**

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの “マニュアル設定” – “その他の設定” – “アンプの割り当て” – “拡張チャンネル” 設定（☞29、30 ページ）で “フロントハイト” を選択してください。
＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの “マニュアル設定” – “その他の設定” – “アンプの割り当て” – “拡張チャンネル” 設定（☞29、30 ページ）で “フロントワイド” を選択してください。

スピーカーの接続

❑ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	Z3R	Z3L	Z2R	Z2L

❑ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

アンプアサインモード ＼ スピーカー		FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
		R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
ゾーン2/ゾーン3	ゾーン2 オフ/ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
		○	○	○	○	○	○	○			○	○				
	ゾーン2 オン/ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○			○	○			○	○		
		○	○	○	○	○					○	○	○	○		
	ゾーン2 オフ/ゾーン3 オン	○	○	○											○	○
	ゾーン2 オン/ゾーン3 オン	○	○	○									○	○	○	○

設定6： 次の再生を切り替えておこなうことができます。

●9.1チャンネル再生

●マルチゾーン再生

- •3.1チャンネル再生 + ゾーン2 モノラル再生 + ゾーン3 モノラル再生
- •3.1チャンネル再生 + ゾーン3 モノラル再生
- •7.1チャンネル再生 + ゾーン2 モノラル再生

アンプアサインモード：**ゾーン2/3（モノラル）**

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択してください。

＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択してください。

スピーカーの接続

❏ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	Z3 MONO	Z3 MONO	Z2 MONO	Z2 MONO

❏ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

スピーカー / アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
ゾーン2/3（モノラル）	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
ゾーン2 オフ/ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	○	○	○	○	○	○	○			○	○				
ゾーン2 オン/ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○			○	○			○	○		
	○	○	○	○	○					○	○	○	○		
ゾーン2 オフ/ゾーン3 オン	○	○	○											○	○
ゾーン2 オン/ゾーン3 オン	○	○	○									○	○	○	○

設定7：

●メインゾーンのFL/FRチャンネルをバイワイヤリング接続した9.1チャンネル再生
（他のモードとの切り替えはできません）

アンプアサインモード：**バイワイヤリング**

または

＊1：フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択してください。

＊2：フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択してください。

スピーカーの接続

❑ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL			FR バイワイヤリング	FL

❑ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

アンプアサインモード ＼ スピーカー	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
バイワイヤリング	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	○	○	○	○	○	○	○			○	○				

設定8：次の再生を切り替えておこなうことができます。
●9.1チャンネル再生
●マルチゾーン再生
・バイワイヤリング接続の7.1チャンネル再生 + ゾーン2ステレオ再生

アンプアサインモード：**バイワイヤリング&ゾーン2**

＊1：フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”–“その他の設定”–“アンプの割り当て”–“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択してください。
＊2：フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”–“その他の設定”–“アンプの割り当て”–“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択してください。

スピーカーの接続

❏ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FR バイワイヤリング	FL	Z2R	Z2L

❏ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

スピーカー ＼ アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
バイワイヤリング&ゾーン2	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
ゾーン2 オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	バイワイヤリング ○	○	○	○	○	○	○			○	○				
ゾーン2 オン	○	○	○	○	○			○	○			○	○		
	バイワイヤリング ○	○	○	○	○					○	○	○	○		

設定9： 次の再生を切り替えておこなうことができます。

●9.1チャンネル再生

●マルチゾーン再生

・バイワイヤリング接続の7.1チャンネル再生 ＋ ゾーン3ステレオ再生

アンプアサインモード： **バイワイヤリング&ゾーン3**

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”–“その他の設定”–“アンプの割り当て”–“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択してください。

＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”–“その他の設定”–“アンプの割り当て”–“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択してください。

スピーカーの接続

❑ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT R	FRONT L	CENTER	SURR. R	SURR. L	SURR.BACK R	SURR.BACK L	AMP ASSIGN R	AMP ASSIGN L	FH/FW/ AMP ASSIGN-2 R	FH/FW/ AMP ASSIGN-2 L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FR / バイワイヤリング	FL / バイワイヤリング	Z3R	Z3L

❑ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

アンプアサインモード ＼ スピーカー	FRONT R	FRONT L	CENTER	SURR. R	SURR. L	SURR. BACK R	SURR. BACK L	FRONT HEIGHT R	FRONT HEIGHT L	FRONT WIDE R	FRONT WIDE L	ZONE2 R	ZONE2 L	ZONE3 R	ZONE3 L
バイワイヤリング&ゾーン3 ゾーン3 オフ	○ ○（バイワイヤリング）	○ ○（バイワイヤリング）	○	○	○	○	○	○	○						
			○	○	○	○	○			○	○				
バイワイヤリング&ゾーン3 ゾーン3 オン	○ ○（バイワイヤリング）	○ ○（バイワイヤリング）	○	○	○			○	○					○	○
			○	○	○					○	○			○	○

設定10： 次の再生を切り替えておこなうことができます。
●9.1チャンネル再生
●マルチゾーン再生
・バイワイヤリング接続の7.1チャンネル再生 ＋ ゾーン2モノラル再生 ＋ ゾーン3モノラル再生

アンプアサインモード： **バイワイヤリング&モノラル**

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの “マニュアル設定” – “その他の設定” – “アンプの割り当て” – “拡張チャンネル” 設定（☞29、30 ページ）で “フロントハイト” を選択してください。
＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの “マニュアル設定” – “その他の設定” – “アンプの割り当て” – “拡張チャンネル” 設定（☞29、30 ページ）で “フロントワイド” を選択してください。

スピーカーの接続

❑ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FR	FL	Z3 MONO	Z2 MONO
								バイワイヤリング			

❑ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

アンプアサインモード ＼ スピーカー	FRONT R	FRONT L	CENTER	SURR. R	SURR. L	SURR. BACK R	SURR. BACK L	FRONT HEIGHT R	FRONT HEIGHT L	FRONT WIDE R	FRONT WIDE L	ZONE2 モノラル	ZONE3 モノラル
バイワイヤリング&モノラル													
ゾーン2 オフ/ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	バイワイヤリング												
	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
ゾーン2 オン/ゾーン3 オフ	○	○	○	○	○			○	○			○	
	バイワイヤリング												
	○	○	○	○	○					○	○	○	
ゾーン2 オフ/ゾーン3 オン	○	○	○	○	○			○	○				○
	バイワイヤリング												
	○	○	○	○	○					○	○		○
ゾーン2 オン/ゾーン3 オン	○	○	○	○	○			○	○			○	○
	バイワイヤリング												
	○	○	○	○	○					○	○	○	○

設定11：

●メインゾーンのFL/FRチャンネルをバイアンプ接続した9.1チャンネル再生
（他のモードとの切り替えはできません）

アンプアサインモード：**バイアンプ**

または

*1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択してください。

*2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの“マニュアル設定”－“その他の設定”－“アンプの割り当て”－“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択してください。

スピーカーの接続

❑ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL					FR	FL
										バイアンプ	

❑ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー						SBR	SBL	FHR	FHL
						SBR	SBL	FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

スピーカー / アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
バイアンプ	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	○	○	○	○	○	○	○			○	○				

設定12：次の再生を切り替えておこなうことができます。
●9.1チャンネル再生
●2チャンネル再生専用スピーカーによるバイワイヤリング再生
切り替えかた……… サラウンドモードの切り替え

アンプアサインモード：**2chバイワイヤリング**

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの “マニュアル設定” – “その他の設定” – “アンプの割り当て” – “拡張チャンネル” 設定（☞29、30 ページ）で “フロントハイト” を選択してください。
＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの “マニュアル設定” – “その他の設定” – “アンプの割り当て” – “拡張チャンネル” 設定（☞29、30 ページ）で “フロントワイド” を選択してください。

スピーカーの接続

❏ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FR	FL	FR	FL
								バイワイヤリング		バイワイヤリング	

❏ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

アンプアサインモード ＼ スピーカー		FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
		R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
2chバイワイヤリング																
	2チャンネル再生時	○	○													
		バイワイヤリング														
	マルチチャンネル再生時	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
		○	○	○	○	○	○	○			○	○				

設定13： 次の再生を切り替えておこなうことができます。

●**9.1チャンネル再生**

●**2チャンネル再生専用スピーカーによるバイアンプ再生**

切り替えかた……… サラウンドモードの切り替え

アンプアサインモード： **2chバイアンプ**

DIRECT/STEREO
ボタンを押す。

→

STANDARD
ボタンを押す。

←

＊1： フロントハイトスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの "マニュアル設定" – "その他の設定" – "アンプの割り当て" – "拡張チャンネル" 設定（☞29、30 ページ）で "フロントハイト" を選択してください。

＊2： フロントワイドスピーカーを接続する場合は、GUI メニューの "マニュアル設定" – "その他の設定" – "アンプの割り当て" – "拡張チャンネル" 設定（☞29、30 ページ）で "フロントワイド" を選択してください。

スピーカーの接続

❑ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FR	FL	FR	FL
								バイアンプ		バイアンプ	

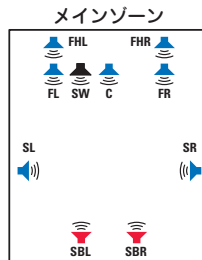
❑ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー								FHR	FHL
								FWR	FWL

音声が出力されるスピーカー

スピーカー ／ アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
2chバイアンプ															
2チャンネル再生時	○	○													
	バイアンプ														
マルチチャンネル再生時	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	○	○	○	○	○	○	○			○	○				

設定14：
●本機のスピーカー端子にフロントハイトスピーカーを接続した9.1チャンネル再生

アンプアサインモード：**フロントハイト**

スピーカーの接続

❏ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL					FHR	FHL

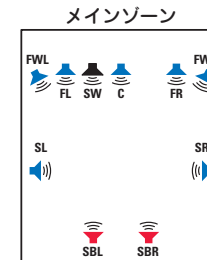
❏ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー						SBR	SBL		

音声が出力されるスピーカー

スピーカー ／ アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
フロントハイト	○	○	○	○	○	○	○	○	○						

設定15：
●本機のスピーカー端子にフロントワイドスピーカーを接続した9.1チャンネル再生

アンプアサインモード：**フロントワイド**

スピーカーの接続

❏ スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
接続するスピーカー	FR	FL	C	SR	SL					FWR	FWL

❏ プリアウト端子に接続するパワーアンプ

プリアウト端子	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL	FHR/FWR	FHL/FWL
接続するスピーカー						SBR	SBL		

音声が出力されるスピーカー

スピーカー ／ アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR.		SURR. BACK		FRONT HEIGHT		FRONT WIDE		ZONE2		ZONE3	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
フロントワイド	○	○	○	○	○	○	○			○	○				

設定16：
●フリーアサイン

❑ 各スピーカー端子に割り当てられるスピーカー

スピーカー端子 / アンプ アサインモード	FRONT		CENTER	SURR.		SURR.BACK		AMP ASSIGN		FH/FW/ AMP ASSIGN-2	
	R	L		R	L	R	L	R	L	R	L
フリーアサイン	FL	FL	FL	FL	FL	FL	FL				
	FR	FR	FR	FR	FR	FR	FR				
	C	C	C	C	C	C	C				
	SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL				
	SR	SR	SR	SR	SR	SR	SR				
	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL	SBL				
	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR	SBR				
	FHL∗1	FHL∗1	FHL∗1	FHL∗1	FHL∗1	FHL∗1	FHL∗1				
	FHR∗1	FHR∗1	FHR∗1	FHR∗1	FHR∗1	FHR∗1	FHR∗1				
	FWL∗2	FWL∗2	FWL∗2	FWL∗2	FWL∗2	FWL∗2	FWL∗2				
	FWR∗2	FWR∗2	FWR∗2	FWR∗2	FWR∗2	FWR∗2	FWR∗2				
	Z2L	Z2L	Z2L	Z2L	Z2L	Z2L	Z2L				
	Z2R	Z2R	Z2R	Z2R	Z2R	Z2R	Z2R				
	Z3L	Z3L	Z3L	Z3L	Z3L	Z3L	Z3L				
	Z3R	Z3R	Z3R	Z3R	Z3R	Z3R	Z3R				

∗1： GUI メニューの“マニュアル設定”–“その他の設定”–“アンプの割り当て”–“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントハイト”を選択しているときに表示します。

∗2： GUI メニューの“マニュアル設定”–“その他の設定”–“アンプの割り当て”–“拡張チャンネル”設定（☞29、30 ページ）で“フロントワイド”を選択しているときに表示します。

ご注意

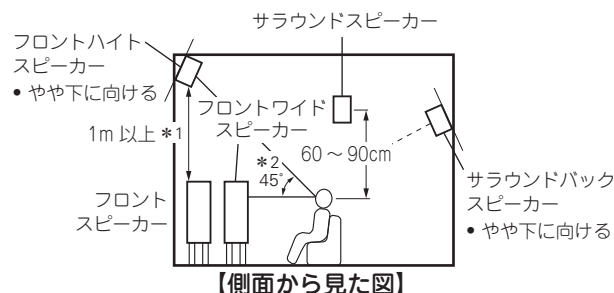
上表は、ゾーン2およびゾーン3のチャンネル設定が“ステレオ”に設定されている場合の選択チャンネルの例です。
モノラル”に設定されている場合は、“Z2（モノラル）”および“Z3（モノラル）”を表示します。

その他の情報

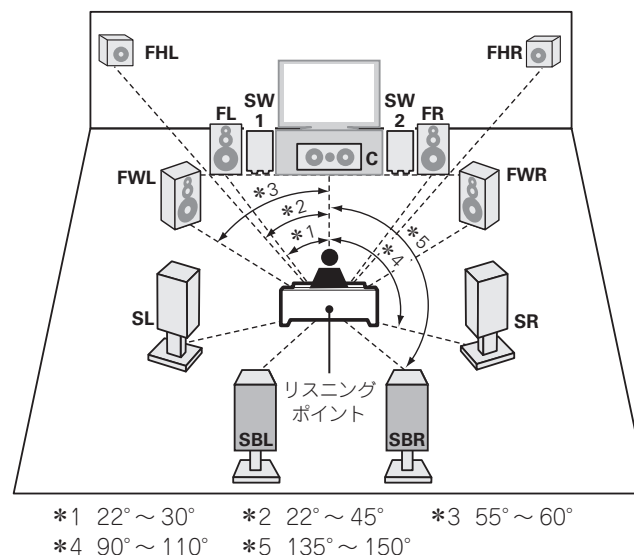
スピーカーの設置について

本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Audyssey DSX™（☞64 ページ）、Dolby Pro Logic IIz（☞64 ページ）および DTS NEO:X（☞64 ページ）に対応しています。
Audyssey DSX™ をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを設置してください。
Dolby Pro Logic IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60 ～ 90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

【側面から見た図】

＊1 Dolby Pro Logic IIz 推奨
＊2 Audyssey DSX™ 推奨

サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイドスピーカーを使用してスピーカーを設置するとき

＊1 22° ～ 30°　＊2 22° ～ 45°　＊3 55° ～ 60°
＊4 90° ～ 110°　＊5 135° ～ 150°

【各スピーカーの呼称について】

FL	フロントスピーカー（左）	SBL	サラウンドバックスピーカー（左）
FR	フロントスピーカー（右）	SBR	サラウンドバックスピーカー（右）
C	センタースピーカー	FHL	フロントハイトスピーカー（左）
SW	サブウーハー	FHR	フロントハイトスピーカー（右）
SL	サラウンドスピーカー（左）	FWL	フロントワイドスピーカー（左）
SR	サラウンドスピーカー（右）	FWR	フロントワイドスピーカー（右）

DENON LINK 4th について

DENON LINK 4th は、DENON 独自の高品質な音声信号伝送技術 DENON LINK 3rd に加えて、HD 音声の高品質再生を実現しています。
共に DENON LINK 4th に対応している AV アンプとブルーレイディスクプレーヤーを DENON LINK ケーブル（ブルーレイディスクプレーヤーに付属）と HDMI ケーブル（別売り）で接続すると、AV アンプから送出されたマスタークロック信号でブルーレイディスクプレーヤーを動作させることができます。AV アンプのマスタークロックで D/A 変換をおこなうため、HDMI 伝送によるクロックジッターの影響を受けずに、ジッターフリー再生を可能にします。これにより、音の定位がより明確になり、HD オーディオにふさわしいクリアーで立体的な音像をお楽しみいただけます。

サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンド

ドルビープロロジック IIz

Dolby PLIIz デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントハイトチャンネルを加えた 7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
フロントハイトチャンネルの追加によって、垂直方向の表現が豊かになり、立体感が向上します。

DOLBY
TRUE HD
PRO LOGIC IIz

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS サラウンド

DTS NEO:X™ サラウンド

DTS NEO:X デコーダーを使用して、2 チャンネルソースや 5.1/6.1/7.1 チャンネルのサラウンドソースを最大 11.1 チャンネルのサウンドで再生するマトリクスデコード技術です。
音楽再生に適した「Music」モードと映画再生に適した「Cinema」モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な「Game」モードがあります。

dts Neo:X　dts-HD Master Audio

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,487,535 号、6,226,616 号、7,212,872 号、7,003,467 号、7,272,567 号、7,668,723 号、7,392,195 号、7,930,184 号、7,333,929 号、7,548,853 号、7,283,634 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS-HD およびシンボル、DTS-HD と一緒のシンボルは DTS, Inc. の登録商標です。DTS-HD Master Audio は DTS, Inc. の商標です。製品はソフトウェアを含みます。DTS,Inc. ©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。

Audyssey

Audyssey Dynamic EQ®

Audyssey Dynamic EQ® は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ® は、Audyssey MultEQ® XT 32 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®

Audyssey Dynamic Volume® は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume® は、Audyssey Dynamic EQ® の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ® XT 32

Audyssey MultEQ® XT 32 は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。MultEQ® XT 32 は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Audyssey Dynamic Surround Expansion™ (Audyssey DSX™)

Audyssey DSX™ は、既存の 5.1ch システムにハイトチャンネルまたはワイドチャンネルを加えることによりサラウンド効果や印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現するサラウンド拡張技術です。臨場感のあるサラウンド空間を構成する為にフロント（前方向）部分に横の広がりを持たせるワイドチャンネル、また、サラウンド空間に奥行き感を作る為に認知（聴くことが）出来る音響信号でフロント（前方向）部分に高さの広がりを持たせるハイトチャンネルを作り出します。さらに既存のフロント、サラウンドチャンネルを組み合わせる技術“Surround Envelopment Processing”により効果を高めています。

AUDYSSEY
MULTEQ XT32
DYNAMIC VOLUME

本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT 32 は、Audyssey Laboratories の登録商標です。
Dynamic EQ® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。
Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。Audyssey DSX™は、Audyssey Laboratoriesの商標です。

詳しくは、www.audyssey.com をご覧ください。

サラウンドモードとパラメーター一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード															
	チャンネル出力							パラメーター　※（　）内は初期値								
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンドバック 左 / 右	フロントハイト 左 / 右	フロントワイド 左 / 右	サブ ウーハー	ダイナミックレンジ 圧縮 *1	DRC *2	LFE *3	AFDM *4	サラウンド バック出力	シネマ EQ	モード	デコーダー	ルーム サイズ
PURE DIRECT, DIRECT (2ch)	○						◎	○（オフ）	○（オート）							
PURE DIRECT, DIRECT (5.1ch)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						
DSD DIRECT	○															
DSD MULTI DIRECT	○	◎	◎				◎			○（0dB）						
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						
STEREO	○						◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						
EXT. IN	○	◎	◎	◎			◎									
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎			○（0dB）		○	○（注 3）	○（注 4）		
WIDE SCREEN	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）			○（オフ）			
HOME THX CINEMA (2ch)	○	◎	◎	◎	◎		◎							○（PLⅡx C）	○	
HOME THX CINEMA (5.1ch)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎			○（0dB）	○（オン）				○	
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx	○	◎	◎	◎			◎	○（オフ）	○（オート）			○	○（注 1）	○（Cinema）		
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	○	◎	◎				◎	○（オフ）	○（オート）			○	○（注 2）	○（Cinema）		
DOLBY PRO LOGIC Ⅱz	○	◎	◎	◎	◎		◎	○（オフ）	○（オート）				○			
DTS NEO:X	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）				○（注 1）	○		
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）		○（0dB）	○（オン）	○	○（注 3）	○（注 4）		
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）		○（0dB）	○（オン）	○	○（注 3）	○（注 4）		
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○（オート）	○（0dB）	○（オン）	○	○（注 3）	○（注 4）		
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）		○（0dB）		○	○（注 3）	○（注 4）		
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）		○（0dB）		○	○（注 3）	○（注 4）		
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）		○（0dB）		○	○（注 3）	○（注 4）		
7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						○（標準）
SUPER STADIUM	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						○（標準）
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						○（標準）
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						○（標準）
CLASSIC CONCERT	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						○（標準）
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						○（標準）
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						○（標準）
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○（0dB）						○（標準）
DOLBY HEADPHONE	○														○	

○：信号有り / 制御可能
◎：スピーカー有り無しの設定により、ON/OFF 可能
*1：ドルビーデジタルおよび DTS 信号再生時
*2：ドルビー TrueHD 信号再生時
*3：ドルビーデジタル、DTS、DVD オーディオおよびスーパーオーディオ CD 再生時
*4：ドルビーデジタル信号再生時

注 1：このパラメーターは、GUI メニューの“パラメーター”–“音声”–“サラウンドパラメーター”–“モード”の設定が“Cinema”のときに使用できます（☞39 ページ）。
注 2：このパラメーターは、GUI メニューの“パラメーター”–“音声”–“サラウンドパラメーター”–“モード”の設定が“Cinema”または“Pro Logic”のときに使用できます（☞39 ページ）。
注 3：このパラメーターは、GUI メニューの“パラメーター”–“音声”–“サラウンドパラメーター”–“サラウンドバック出力”の設定が“オフ”、“オン”、“MTRX ON”または“PLⅡx CINEMA”のとき、または DTS NEO:X デコーダー使用時に“モード”の設定が“Cinema”のときに使用できます（☞39、40 ページ）。
注 4：DTS NEO:X デコーダー（+NEO:X）使用時に設定できます。

サラウンドモード	信号と調節可能なモード													
	パラメーター　※（　）内は初期値													
	エフェクトレベル	ディレイタイム	サブウーハーオン / オフ	PRO LOGIC IIx MUSIC モードのみ			Heightゲイン	DTS NEO:X	EXT. IN モードのみ	トーンコントロール	MultEQ® XT 32	Dynamic EQ® *5	Dynamic Volume® *6	RESTORER *7
				パノラマ	ディメンション	センター幅		センターゲイン	サブウーハーアッテネーター					
PURE DIRECT, DIRECT (2ch)			○								○（注 7）	○（注 7）	○（注 7）	
PURE DIRECT, DIRECT (5.1ch)											○（注 7）	○（注 7）	○（注 7）	
DSD DIRECT			○											
DSD MULTI DIRECT														
MULTI CH DIRECT											○（注 7）	○（注 7）	○（注 7）	
STEREO										○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
EXT. IN									○					
MULTI CH IN							○（注 5）			○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
WIDE SCREEN	○（オン、10）									○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
HOME THX CINEMA (2ch)										○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
HOME THX CINEMA (5.1ch)										○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
DOLBY PRO LOGIC IIx				○（オフ）	○（3）	○（3）				○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
DOLBY PRO LOGIC II				○（オフ）	○（3）	○（3）				○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
DOLBY PRO LOGIC IIz							○（中）			○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
DTS NEO:X								○（注 6）		○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
DOLBY DIGITAL							○（注 5）			○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	
DOLBY DIGITAL Plus							○（注 5）			○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	
DOLBY TrueHD							○（注 5）			○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	
DTS SURROUND							○（注 5）			○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	
DTS 96/24							○（注 5）			○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	
DTS-HD							○（注 5）			○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	
7CH STEREO	○（10）									○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
SUPER STADIUM	○（10）									○（注 8）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
ROCK ARENA	○（10）									○（注 9）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
JAZZ CLUB	○（10）									○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
CLASSIC CONCERT	○（10）									○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
MONO MOVIE	○（10）									○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
VIDEO GAME	○（10）									○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
MATRIX	○（10）									○（0dB）	○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○
DOLBY HEADPHONE											○（オフ）	○（オフ）	○（オフ）	○

○：信号有り / 制御可能

*5：GUI メニューの“パラメーター”–“音声”–“Audyssey 設定”–“MultEQ® XT 32”の設定（☞42 ページ）が“オフ”のとき、この項目は設定できません。

*6：GUI メニューの“パラメーター”–“音声”–“Audyssey 設定”–“Dynamic EQ®”の設定（☞42 ページ）が“オフ”または“マニュアル”のとき、この項目は設定できません。

*7：この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。

注 5：PLIIz デコーダー（+PLIIz）使用時に設定できます。

注 6：“DTS NEO:X Cinema”または“DTS NEO:X Game”のときの初期値：1.0
“DTS NEO:X Music”のときの初期値：0.3

注 7：GUI メニューの“オートセットアップ”–“オプション”–“ダイレクトモード”の設定が“オン”のときに設定できます（☞23 ページ）

注 8：このモードのときは、“トーンデフィート”の設定が“オフ”、低音が +6dB、高音が 0dB になります。（お買い上げ時の設定）

注 9：このモードのときは、“トーンデフィート”の設定が“オフ”、低音が +6dB、高音が +4dB になります。（お買い上げ時の設定）

入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号																			
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG–2 AAC			Super Audio CD	
		アナログ	PCM (multi ch)	PCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）*8	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1 + 1ch)	DSD (multi ch)	DSD (2ch)
HOME THX CINEMA																					
ES DSCRT6.1 + THX	*1						○														
ES MTRX6.1 + THX	*2							△													
THX SURROUND EX	*1		○								○	○	◎	○	○		○			○	
THX Ultra2 Cinema	*3		○		○	○		▲	○	○	○	○	○	○	○		○			○	
THX Music Mode	*3		○		○	○		▲	○	○	○	○	○	○	○		○			○	
THX Games Mode	*3	○	○	○	○	○		▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
THX Cinema			○		○	○	○	▲	○	○	○	○	○	○	○		○			○	
PLIIx C + THX	*4	○	○	○	○	○		▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
PLII C + THX		○		○												○		○			○
DOLBY PL + THX		○		○												○		○			○
PLIIz + THX	*5	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
STANDARD																					
DTS SURROUND																					
DTS-HD MSTR					●																
DTS-HD HI RES						●															
DTS ES DSCRT6.1	*1						●														
DTS ES MTRX6.1	*2							△●													
DTS SURROUND							○	▲●	●												
DTS 96/24										●											
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	*3				○	○		▲	○	○											
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	*1				○	○		▲	○	○											
DTS (–HD) + PLIIz	*5				○	○	○	▲	○	○											
DTS(-HD) + NEO:X CINEMA	*6				○	○	○	▲	○	○											
DTS(-HD) + NEO:X MUSIC	*6				○	○	○	▲	○	○											
DTS(-HD) + NEO:X GAME	*6				○	○	○	▲	○	○											
DTS NEO:X CINEMA	*7	○		○												○		○			
DTS NEO:X MUSIC	*7	○		○												○		○			
DTS NEO:X GAME	*7	○		○												○		○			
Audyssey DSX™					○	○	○	▲	○	○											

●：初期状態で選ばれるモード
○：選択可能なモード

*1：サラウンドバックスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません (☞24 ページ)。
*2：“スピーカー構成”の設定が“フロント”、“センター”、“サラウンド”および“サラウンドバック（1 台)”以外のときは選択できません。
*3：サラウンドバックスピーカーを“1 台”または“無し”に設定している場合は、選択できません (☞24 ページ)。
*4：入力信号が 2ch 以外のときに、サラウンドバックスピーカーを“1 台”または“無し”に設定している場合は選択できません。
*5：フロントハイトスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません (☞24 ページ)。
*6：サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーをすべて“無し”に設定している場合は、選択できません (☞24 ページ)。
*7：フロントスピーカーのみを使用した 2 チャンネル再生のときは選択できません。
*8：DTS ES MTRX 信号入力時、“スピーカー構成”の設定が“フロント”、“センター”、“サラウンド”および“サラウンドバック（1 台)”のときは、△のみ選択できます (☞24 ページ)。また、“スピーカー構成”の設定が“サラウンドバック（2 台)”、“フロントハイト”および“フロントワイド”のときは、▲のみ選択できます (☞24 ページ)。

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号																			
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG–2 AAC			Super Audio CD	
		アナログ	PCM (multi ch)	PCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1 + 1ch)	DSD (multi ch)	DSD (2ch)
STANDARD																					
DOLBY SURROUND																					
DOLBY TrueHD											●										
DOLBY DIGITAL+												●									
DOLBY DIGITAL													○	●	●						
DOLBY DIGITAL EX	*1												○	○	○						
DOLBY (D+) (HD) +EX	*1										○	○									
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	*3										○	○	◎●	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	*1										○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIz	*5										○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) + NEO:X CINEMA	*6										○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) + NEO:X MUSIC	*6										○	○	○	○	○						
DOLBY (D) (D+) (HD) + NEO:X GAME	*6										○	○	○	○	○						
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	*1 *7	○		○												●		●			○
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	*1 *7	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	*1 *7	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA	*7	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC	*7	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGIC II GAME	*7	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGIC	*7	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGIC IIz HEIGHT	*5	○		○												○		○			○
Audyssey DSX™	*9										○	○	○	○	○						
DOLBY PRO LOGICIIx CINEMA A-DSX	*1 *7 *9	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGICIIx MUSIC A-DSX	*1 *7 *9	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGICIIx GAME A-DSX	*1 *7 *9	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGICII CINEMA A-DSX	*7 *9	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGICII MUSIC A-DSX	*7 *9	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGICII GAME A-DSX	*7 *9	○		○												○		○			○
DOLBY PRO LOGIC A-DSX	*7 *9	○		○												○		○			○
DOLBY HEADPHONE	*10	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○

●：初期状態で選ばれるモード
◎：“AFDM”が“オン”に設定されているときに固定されるモード
○：選択可能なモード

*1: サラウンドバックスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*3: サラウンドバックスピーカーを“1 台”または“無し”に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*5: フロントハイトスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*6: サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーをすべて“無し”に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*7: フロントスピーカーのみを使用した 2 チャンネル再生のときは選択できません。
*9: フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*10: ヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを差し込んでいる場合に、選択できます。

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号																			
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG–2 AAC			Super Audio CD	
		アナログ	PCM (multi ch)	PCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1 + 1ch)	DSD (multi ch)	DSD (2ch)
STANDARD																					
AAC																					
MPEG2 AAC																	●		●		
AAC + DOLBY EX	*1																○				
AAC + PLIIx CINEMA	*3																○				
AAC + PLIIx MUSIC	*1																○				
AAC + PLIIz	*5																○				
AAC + NEO:X CINEMA	*6																○				
AAC + NEO:X MUSIC	*6																○				
AAC + NEO:X GAME	*6																○				
Audyssey DSX™	*9																○				
MULTI CH IN																					
MULTI CH IN			●																	●	
MULTI CH IN 7.1	*1		●																		
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*3		○																	○	
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1		○																	○	
MULTI IN + DOLBY EX	*1		○																	○	
MULTI IN + PLIIz	*5		○																	○	
MULTI IN + NEO:X CINEMA	*6		○																		
MULTI IN + NEO:X MUSIC	*6		○																		
MULTI IN + NEO:X GAME	*6		○																		
Audyssey DSX™	*9		○																	○	
DIRECT																					
DIRECT		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
DSD DIRECT																					○
DSD MULTI DIRECT																				○	
MULTI CH DIRECT			○																		

●：初期状態で選ばれるモード
○：選択可能なモード

*1：サラウンドバックスピーカーを"無し"に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*3：サラウンドバックスピーカーを"1 台"または"無し"に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*5：フロントハイトスピーカーを"無し"に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*6：サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーをすべて"無し"に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。
*9：フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーを"無し"に設定している場合は、選択できません（☞24 ページ）。

ボタン		注	入力信号																			
	サラウンドモード			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG–2 AAC			Super Audio CD	
			アナログ	PCM (multi ch)	PCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1 + 1ch)	DSD (multi ch)	DSD (2ch)
PURE DIRECT																						
	PURE DIRECT		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	DSD PURE DIRECT																					○
	DSD MULTI PURE																				○	
	MULTI CH PURE DIRECT			○																		
DSP SIMULATION																						
	7CH STEREO	*11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	WIDE SCREEN		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	SUPER STADIUM		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	CLASSIC CONCERT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																						
	STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

●：初期状態で選ばれるモード
○：選択可能なモード

*11：サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーを“無し”に設定している場合やヘッドホンを使用している場合は、“5CH STEREO”を表示します。
サラウンドバックスピーカーとフロントハイトスピーカー、またはサラウンドバックスピーカーとフロントワイドスピーカーを使用している場合は、“9CH STEREO”を表示します。

アンプアサインの設定とスピーカー出力の関係

STEREO/DIRECT (2ch) モード

設定	状態	スピーカー端子			
	サラウンドモード	SURROUND	SURROUND BACK	AMP ASSIGN	FH/FW/AMP ASSIGN-2
2ch バイワイヤリング	STEREO/DIRECT	–	–	FL/FR	FL/FR
	その他	SL/SR	SBL/SBR	–	–
2ch バイアンプ	STEREO/DIRECT	–	–	FL/FR	FL/FR
	その他	SL/SR	SBL/SBR	–	–

マルチゾーンの電源 ON/OFF

設定	状態		スピーカー端子			
	ゾーン2	ゾーン3	SURROUND	SURROUND BACK	AMP ASSIGN	FH/FW/AMP ASSIGN-2
ゾーン 2	ON	ON	SL/SR	–	–	Z2 L/R
		OFF	SL/SR	–	–	Z2 L/R
	OFF	ON	SL/SR	SBL/SBR	–	–
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	–	–
ゾーン 3	ON	ON	SL/SR	–	–	Z3 L/R
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	–	–
	OFF	ON	SL/SR	–	–	Z3 L/R
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	–	–
ゾーン（モノラル）	ON	ON	SL/SR	–	–	Z2/Z3
		OFF	SL/SR	–	–	Z2
	OFF	ON	SL/SR	–	–	Z3
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	–	–
バイワイヤリング & ゾーン 2	ON	ON	SL/SR	–	FL/FR	Z2 L/R
		OFF	SL/SR	–	FL/FR	Z2 L/R
	OFF	ON	SL/SR	SBL/SBR	FL/FR	–
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	FL/FR	–
バイワイヤリング & ゾーン 3	ON	ON	SL/SR	–	FL/FR	Z3 L/R
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	FL/FR	–
	OFF	ON	SL/SR	–	FL/FR	Z3 L/R
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	FL/FR	–
バイワイヤリング & モノラル	ON	ON	SL/SR	–	FL/FR	Z2/Z3
		OFF	SL/SR	–	FL/FR	Z2
	OFF	ON	SL/SR	–	FL/FR	Z3
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	FL/FR	–
ゾーン 2/ゾーン 3	ON	ON	–	–	Z3 L/R	Z2 L/R
		OFF	SL/SR	–	–	Z2 L/R
	OFF	ON	–	–	Z3 L/R	–
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	–	–
ゾーン 2/ゾーン 3（モノラル）	ON	ON	–	–	Z3(MONO)	Z2(MONO)
		OFF	SL/SR	–	–	Z2(MONO)
	OFF	ON	–	–	Z3(MONO)	–
		OFF	SL/SR	SBL/SBR	–	–

故障かな？と思ったら

アップグレードをおこなうと、「オーディオ」の内容が変更されます。
「オーディオ」に関する項目を確認する場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧ください。

❏ 各接続は正しいですか
❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【オーディオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ	
			AVC-A1HD	AVP-A1HD
センタースピーカーから音が出ない。	●テレビや AM 放送などのモノラル音源を、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）または“HOME THX CINEMA”モードで再生している。	●モノラル音源を再生する場合は、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）または“HOME THX CINEMA”以外のサラウンドモードを選んでください。	51 ～ 53	51 ～ 53
サラウンドスピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードが、2 チャンネル再生用（“STEREO”）になっている。	●サラウンド再生用のモードにしてください。	51 ～ 53	51 ～ 53
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	●サラウンドバックスピーカーの設定が“無し”になっている。 ●6.1/7.1 チャンネル再生用のサラウンドモードになっていない。 ●サラウンドバックスピーカーのパワーアンプの割り当てをおこなっている。	●サラウンドバックスピーカーを“無し”以外に設定してください。 ●サラウンド再生用のモードを選んでください。 ●サラウンドバックスピーカーからは音声が出力されません。設定を変更してください。	24 51 ～ 53 44	24 51 ～ 53 —
フロントハイトスピーカーから音が出ない。	●フロントハイトスピーカーを使用する設定になっていない。 ●フロントハイトスピーカーの設定が“無し”になっている。 ●“拡張チャンネル”の設定が“フロントワイド”になっている。	●“アンプの割り当て”設定で、フロントハイトスピーカーを使用する設定にしてください。 ●フロントハイトスピーカーを“無し”以外に設定してください。 ●“拡張チャンネル”の設定を“フロントハイト”にしてください。	29 24 29、30	— 24 29、30
フロントワイドスピーカーから音が出ない。	●フロントワイドスピーカーを使用する設定になっていない。 ●フロントワイドスピーカーの設定が“無し”になっている。 ●“拡張チャンネル”の設定が“フロントハイト”になっている。	●“アンプの割り当て”設定で、フロントワイドスピーカーを使用する設定にしてください。 ●フロントワイドスピーカーを“無し”以外に設定してください。 ●“拡張チャンネル”の設定を“フロントワイド”にしてください。	29 24 29、30	— 24 29、30
サブウーハーから音が出ない。	●サブウーハーの電源が入っていない。 ●オートセットアップでサブウーハーが検出されなかったか、スピーカーの設定で、サブウーハーを“無し”にしている。 ●サブウーハーの出力が正しく接続されていない。 ●サブウーハーの音量の設定が小さいか“オフ”になっている。	●サブウーハーの電源を入れてください。 ●サブウーハーの設定を“有り”にしてください。 ●接続を確認してください。 ●サブウーハーの音量を上げてください。	— 24 8、9 —	— 24 8、9 —
メインリモコンの **TEST** ボタンを押しても、テストトーンが出力されない。	●サラウンドモードが“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）または“HOME THX CINEMA”モードになっていない。	●サラウンドモードを“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）または“HOME THX CINEMA”モードにしてください。	52	52

症状	原因	対策	関連ページ	
			AVC-A1HD	AVP-A1HD
DTS 音声が出力されない。	● DVD プレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。 ● DVD プレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。 ● 本機のデコードモードの設定が、"PCM" になっている。	● DVD プレーヤーの設定をしてください。詳しくは、ご使用のプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ● DTS 対応のプレーヤーをお使いください。 ● デコードモードを "オート" または "DTS" にしてください。	— — 51	— — 51
HDMI オーディオ信号がスピーカーに出力されない。	● HDMI オーディオ信号の出力先の設定が合っていない。	● HDMI オーディオ信号をスピーカーから出力するときは、"アンプ" に設定してください。	36	37
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	● HDMI オーディオ信号の出力先の設定が合っていない。	● HDMI オーディオ信号をテレビから出力するときは、"TV" に設定してください。	36	37
ウェブコントロール機能を使用して保存した内容が呼び出せない。	● アップグレード前に保存した内容は呼び出せません。	● アップグレード後、再度各設定をおこなってください。	67	67

主な仕様

AVC-A1HD

アップグレードをおこなうと、「オーディオ部」の内容が変更されます。「オーディオ部」に関する項目を確認する場合には、本編の取扱説明書ではなく、本書をご覧ください。

❑オーディオ部

●パワーアンプ部

定格出力：
- フロント：150W ＋ 150W（負荷 8Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05%）
  170W ＋ 170W（負荷 6Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）
- センター：150W（負荷 8Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05%）
  170W（負荷 6Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）
- サラウンド：150W ＋ 150W（負荷 8Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05%）
  170W ＋ 170W（負荷 6Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）
- サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイド：
  150W ＋ 150W（負荷 8Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05%）
  170W ＋ 170W（負荷 6Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）

ダイナミックパワー： 200W × 2 チャンネル（負荷 8Ω）
340W × 2 チャンネル（負荷 4Ω）

出力端子： フロント / センター / サラウンド /
サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイド：　6 ～ 16Ω

●プリアンプ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV/47k Ω
周波数特性：	10Hz ～ 100kHz：＋ 1、－ 3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	102dB（JIS-A、DIRECT モード時）
ひずみ率	0.005%（20Hz ～ 20kHz、DIRECT モード時）
定格出力	1.2V

●デジタル部

D/A 出力	定格出力：2V（0dB 再生時） 全高調波ひずみ率：0.005% ダイナミックレンジ：110dB
デジタル入力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

●フォノ・イコライザー部（PHONO 入力　REC OUT）

入力感度：	2.5mV
RIAA 偏差：	± 1dB（20Hz ～ 20kHz）
S/N 比：	74dB（JIS-A、5mV 入力時）
ひずみ率：	0.03%（1kHz、3V 出力時）
定格出力：	150mV

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

AVP-A1HD

アップグレードによる仕様の変更はありません。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

DENON

デノンお客様相談センター

☎ 044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1　D&Mビル

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次のURLでもご確認できます。

http://denon.jp/jp/Support/Pages/ServieCenter.aspx

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

3520 10058 00AD